

# 植物群落

## 植物群落概論

### 概要

希少植物群落の選定にあたっては、県内に存在が確認されている全群落を対象として、現地調査、文献、環境省自然環境保全基礎調査植生図（2010年に福岡県内全図幅の改訂が終了）などをもとに、植物群落分科会において、後述する選定基準に従って検討した。

群落の区分および名称については、原則として、優占種1種で区分し、群落名とした。この方法によれば、相観（植生の外観）でも区分が可能であり、調査者によるデータのばらつきが少ないこと、既存文献などのデータから読み替えが容易であり、「植物群落レッドデータブック」（我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会、1996）で用いられている方法である。この方法により区別された群落は、種組成に基づいて植物社会学的に命名された群集単位に該当する場合は、その群集名を本文中に記した。群集名は、原則として、「福岡県植物誌」（福岡県高等学校生物研究部会、1975）、「日本植生誌 九州」（宮脇、1981）、「日本植物群落図説」（宮脇・奥田、1990）の記載に準じた。なお、環境省特定植物群落に選定されている個体群については、本来は群落の構成要素として位置付けられるものであるが、特定植物群落として周知されている現状を踏まえ、RDB2001に引き続き、調査対象として検討し、記載した。

植物の和名については、「日本の野生植物 草本Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」（佐竹ほか、1981、1982a、1982b）、「日本の野生植物 木本Ⅰ、Ⅱ」（佐竹ほか、1989a、1989b）、「日本の野生植物 シダ」（岩槻、1992）に従った。

今回の改訂において、群落の区分および記載方法などがRDB2001と異なる点は、以下のとおりである。

- (1) RDB2001では、草本群落の一部に複数の植生単位を含む単一群落があったが、保全対象を明確にする観点から、次のとおり分割記載し、表 群落-1において\*で示した。
  - ・山地岩角地植物群落 → イワヒバ群落\*、ツメレンゲ群落\*、チャボツメレンゲ群落\*
  - ・湿生植物群落 → オオミズゴケ群落\*、ミヤマシラスゲ群落\*、コイヌノハナヒゲ群落\*、シロイヌノヒゲ群落\*、ツクシクロイヌノヒゲ群落\*
  - ・河辺草本植物群落 → オオタチヤナギ群落\*、ヨシ群落\*、マコモ群落\*、オギ群落\*
  - ・ため池水生植物群落 → ヒツジグサ群落\*、ガガブタ群落\*、オグラコウホネ群落\*
  - ・塩沼地植物群落 → シオクグ群落\*、フクト群落\*、ナガミノオニシバ群落\*、シバナ群落\*、ハマサジ群落\*、ハママツナ群落\*、ヒロハマツナ群落\*

また、RDB2001では、上記以外の単一群落の一部についても、本文中に、本来は他の群落として記すべき植生単位が含まれていたため、それらについても分割記載した。

- (2) RDB2001では、単一群落および複合群落（一定地域における植生単位の集合体、例えば、英彦山の自然林）に区別され、それぞれ評価されていたが、今回は単一群落のみを評価対象としたため、複合群落の構成植生単位をそれぞれ分離・独立させ、単一群落として評価した。その際、単一群落中に該当するものがない場合は、今回新たに群落名を与え、表 群落-1において\*\*で示した（カゴノキ群落\*\*、カヤ群落\*\*、ヤブツバキ群落\*\*）。
- (3) 記載群落は、植生体系に基づいて階級的に整理した。すなわち、表 群落-2に示すように、大区分を植生クラスおよび自然植生・代償植生、中区分を相観（植生の外観）、小区分を植物群落（単一群落）として体系化し、俯瞰的理解が容易になるようにした。また、植物社会学的な群落名がある場合は、原則として優占種-標徴種による群落名（例えば、スダジイ-ミズバク群集）を用いて本文中に記した。
- (4) 前回、対象外であった浅海・汽水域の植生および海岸植生の一部についても検討し、希少植物群落に該当する場合は記載した（アマモ群落、コウボウシバ群落など）。

今回の改訂において、選定された群落は、カテゴリーⅠ（緊急に対策必要）：13 群落，カテゴリーⅡ（対策必要）：28 群落，カテゴリーⅢ（破壊の危惧）：32 群落，カテゴリーⅣ（要注意）：16 群落，合計 89 群落であった。

RDB2001 からの変化状況を表 群落-1 に示す。その評価結果を要約すると、以下のとおりであった。

- (1) ランクが上昇した群落（対策の緊急性が増大した群落，ランク外からの新規記載を除く）は，11 群落であった。危機の主な要因（最も影響が大きい要因として判断されたもの）は，ニホンジカ増加：5 群落（ツガ群落，ミズナラ群落，シオジ群落，ミヤコザサ群落，モミ群落），自然災害：2 群落（チャボツメレンゲ群落，イヌマキ群落），病虫害：1 群落（ムクノキ群落），管理放棄：1 群落（ヒツジグサ群落），ため池改修（ガガブタ群落），遷移進行：1 群落（クマイザサ群落）であった。
- (2) ランクが下降した群落（対策の緊急性が低下した群落）は，13 群落であった。これらのうち，9 群落については，今回，複数の植生単位を含む群落を分割・分離して評価したものであり，危機の要因が必ずしも軽減されたものではないと考えられる。残り 4 群落のうちの 3 群落（ヤブニッケイ群落，アラカシ群落，ウラジログアシ群落）については，照葉樹自然林で群落状態が安定化したため，危機要因が低下したと判断され，1 群落（ツクシシヤクナゲ群落）については，シカの忌避植物であり，英彦山地などでは上層木の枯損により生育良好となったことによる。
- (3) 選定された草本群落（ハマゴウ群落を含む）の数と割合は，全体：89 群落中の 43 群落（48%），カテゴリーⅠ：12 群落中の 9 群落（75%），カテゴリーⅡ：29 群落中の 23 群落（79%），カテゴリーⅢ：32 群落中の 7 群落（22%），カテゴリーⅣ：16 群落中の 4 群落（25%）であった。従って，保全対策の緊急性が高いカテゴリーⅠおよびⅡには，草本群落の占める割合が大きい。
- (4) 草本植物群落 43 群落のうち，自然公園内に所在しているもの（複数の生育地がある場合は，いずれかが該当すれば自然公園内に所在するとみなした）は 19 群落（44%）で，半数以下であった。一方，木本群落（優占種が木本であるもの，低木群落を含む）のうち，自然公園内のものは，46 群落のうちの 34 群落（74%）で，約 3/4 であった。従って，草本群落の方が木本群落よりも保護制度（自然公園など）に基づく存続基盤が脆弱であると考えられる。

## 選定基準

植物群落の選定基準は，RDB2001 と同様に，「植物群落レッドデータブック」（我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会，1996）に準拠した。この基準は，主として，保全対策の観点から評価するもので，その基準は以下のとおりとした。

- ・カテゴリーⅠ：緊急に対策必要      緊急に対策を講じなければ群落が壊滅する。
- ・カテゴリーⅡ：対策必要            対策を講じなければ群落の状態が徐々に悪化する。
- ・カテゴリーⅢ：破壊の危惧        現在は保護対策が功を奏しているが，将来は破壊の危惧が大きい。
- ・カテゴリーⅣ：要注意            当面，新たな保護対策は必要ないが，監視は必要。

評価は，現地調査，文献，個人の情報などを総合し，危機要因の要素数およびその影響の強弱に基づいて，可能な限り定量的に行った。

## 保全対策

今回選定された群落の危機要因について表 群落-3 に示す。要因数順に挙げると，自然災害（25 件），遷移進行（20 件），海岸開発（17 件），河川開発（15 件）などであった。

自然災害は 1991 年の台風被害に起因するものが主なものであった。20 年が経過した現在においても

植生は回復途上にあると考えられるので、今後も継続的なモニタリングが望まれる。

遷移進行を危機要因とする群落のうち、ススキ草原やコナラ群落などの二次植生（二次林、二次草原）については、今後、群落維持のための人的管理の仕組みなどを整えていく必要がある。コイヌノハナヒゲ群落やシロイヌノヒゲ群落などの自然植生についても、遷移進行を抑制する生態学管理方法などについて検討が望まれる。

海岸開発や河川開発を危機要因とする群落の多くは草本群落であった。その中には、フクド群落、ハマツナ群落などのように自然公園域に隣接する群落も見られるので、自然公園の拡張なども保全施策として有効と考えられる。

以上のように、遷移進行、海岸開発、河川開発の影響を受ける群落には、前述のとおり、対策の緊急性が高いカテゴリーⅠおよびⅡに評価された草本群落が多い。従って、中間湿原、浮葉・沈水草原、塩沼地植生などの水辺域の草本植生に対する保全対策が早急に望まれる。

一方、今回、RDB2001では取り上げられなかった危機要因として、シカ増加が9群落で挙げられた。それらはブナクラス域またはこれに隣接する植生であった。特にツガ群落、ミズナラ群落、シオジ群落、ミヤコザサ群落、モミ群落の5群落は、前述のとおり、シカ増加が主な要因となってカテゴリーランクが上昇した。従って、県内のブナ林域におけるニホンジカの生態学的管理対策も早急に望まれる。

## 参考資料

- 第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査情報提供ホームページ. <http://www.vegetation.jp/>  
福岡県, 1978. 第2回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書.  
福岡県高等学校生物研究会. 1975. 福岡県植物誌. 博洋社.  
岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物 シダ. 平凡社.  
環境庁, 1988. 第3回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書 追加・追跡調査(福岡県).  
宮崎県版レッドデータブック作成検討委員会(編), 2000. 宮崎県の保護上重要な野生生物.  
宮脇昭(編), 1981. 日本植生誌九州. 至文堂.  
宮脇昭・奥田重俊(編), 1990. 日本植物群落図説. 至文堂.  
宮脇昭・奥田重俊・藤原陸夫(編), 1994. 改訂新版日本植生便覧. 至文堂.  
岡山県生活環境部自然環境課, 2003. 岡山県版レッドデータブック.  
佐竹義輔ほか(編), 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ. 平凡社.  
佐竹義輔ほか(編), 1982a. 日本の野生植物 草本Ⅰ. 平凡社.  
佐竹義輔ほか(編), 1982b. 日本の野生植物 草本Ⅱ. 平凡社.  
佐竹義輔ほか(編), 1989a. 日本の野生植物 木本Ⅰ. 平凡社.  
佐竹義輔ほか(編), 1989b. 日本の野生植物 木本Ⅱ. 平凡社.  
我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会, 1996. 植物群落レッドデータ・ブック. (財)日本自然保護協会・(財)世界自然保護基金日本委員会. アボック社出版局.

## ※特記事項の凡例

- (1) 群落所在地の全てまたは一部が自然公園(図群落-1)に指定されている場合は、その名称を次のとおり略記した。また、特別地域が含まれる場合は、略記名の後に★を記した。  
北九州；北九州国定公園，玄海；玄海国定公園，耶馬日田英彦山；耶馬日田英彦山国定公園，脊振雷山；脊振雷山県立自然公園，太宰府；太宰府県立自然公園，筑後川；筑後川県立自然公園，筑豊；筑豊県立自然公園，矢部川；矢部川県立自然公園。
- (2) 群落の全てまたは一部が天然記念物に指定されている場合は、次のとおり略記し、その名称を記した。

特天；特別天然記念物，国天；国指定天然記念物，県天；県指定天然記念物。なお，市町村指定の場合は，略記せずに記した。

- (3) 群落の全てまたは一部が森林法に基づく保護林に指定されている場合は，保護林と記し，その名称を記した。
- (4) 群落の全てまたは一部が環境省特定植物群落に選定されている場合は，表 群落-4 に示す番号を記した。

表 群落-1 RDB2001 と今回のカテゴリ評価の比較

		RDB2001におけるカテゴリ						
		I	II	III	IV	— (対象外)	合計	
今回の カテゴリ	I	アカマツ群落〔自然植生〕 アカマツ群落〔代償植生〕 ヌマガヤ群落* コイヌノハナヒゲ群落* ツクシクロイヌノヒゲ群落* フクド群落* シバナ群落* ハマサジ群落* ゲンカイイワレンゲ群落	チャボツメレンゲ群落* ヒツジグサ群落* ガガブタ群落*			ハンノキ群落	13群落	
	II	ツクシヤクナゲ群落 ナガミノオニシバ群落* ハママツナ群落* ヒロハマツナ群落*	ブナ群落 イワヒバ群落* ツメレンゲ群落* オオタチヤナギ群落* クロマツ群落 ヒモヅル群落 ススキ群落 オオミスゴケ群落* シロイヌノヒゲ群落* ツクシオオガヤツリ群落 オギ群落 オグラコウホネ群落* セキシウモ群落 ガシヤモク群落 コウボウムギ群落 ケカモノハン群落* ハマオモト群落	イヌマキ群落 ムクノキ群落			リュウノヒゲモ群落 アイアシ群落 ヒトモトススキ群落 イセウキヤガラ群落 コウボウシバ群落	28群落
	III	シオクグ群落*	ヤブニッケイ群落 アラカン群落 ウラジロガシ群落 コナラ群落* ミヤマシラスゲ群落* ヨシ群落*	ヒノキ群落〔自然植生〕 ケヤキ群落〔ブナクラス〕 イヌシデ群落 スダジイ群落 ツブラジイ〔ヨジイ〕群落 タブノキ群落 カゴノキ群落** アカガシ群落 カヤ群落** ケヤキ群落〔ヤブツバキクラス〕 ハマボウ群落 マルバニッケイ群落 ヤブツバキ群落** サザンカ群落 タマズキ群落 クロモジ群落 ダルマキク群落 スギ群落〔巨木林〕	ツガ群落* ミズナラ群落 シオジ群落 ミヤコザサ群落 クマイザサ群落* モミ群落	アマモ群落	32群落	
	IV		マコモ群落*	ボタンボウフウ群落*		ツゲ群落 ゲンカイツツジ群落 イワンデ群落 エノキ群落 ムクロジ群落 トベラ群落 ハマヒサカキ群落 ハマヒロ群落 マテバシイ群落 ハチジョウススキ群落 クスノキ群落〔巨木林〕 キンメイモウソウチク群落	ツルナ群落 ハマゴウ群落	16群落
	ランク 外		シイ・カシ二次林* オオカナダモ群落*					89群落

\* RDB2001における単一群落のうち、複数の植生単位を含むものについてそれぞれ分割した群落

\*\* RDB2001における複合群落の構成植生単位を分離・独立させた際に、新たに区別した群落

網掛けは福岡県RDB2001からカテゴリ変更がなかったもの

表 群落-2 福岡県レッドデータブック改訂版 植物群落リスト

植生区分	相観区分	群落名	カテゴリー2001	新カテゴリー	
ブナクラス域自然植生	落葉広葉樹林	ブナ群落	II	II	
		ミズナラ群落	IV	III	
	冷温帯針葉樹林	ツガ群落	IV (モミ群落)	III	
		ヒノキ群落〔自然植生〕	III	III	
		ツクシシャクナゲ群落	I	II	
	溪畔林	シオジ群落	IV	III	
		ケヤキ群落〔ブナクラス〕	III (ヤマザクラ群落)	III	
	岩角地・風衝地植生	ツゲ群落	IV	IV	
		ゲンカイツツジ群落	IV	IV	
		イワシデ群落	IV	IV	
		イワヒバ群落	II	II	
		ツメレンゲ群落	II	II	
		チャボツメレンゲ群落	II	I	
ブナクラス域代償植生	落葉広葉樹二次林	イヌシデ群落	III	III	
	二次草原	ミヤコザサ群落	IV	III	
		クマイザサ群落	IV (ミヤコザサ群落)	III	
ヤブツバキクラス域自然植生	常緑広葉樹林	スダジイ群落	III	III	
		ツブラジイ(コジイ)群落	III	III	
		タブノキ群落	III	III	
		ヤブニッケイ群落	II	III	
		カゴノキ群落	III (注1)	III	
		アラカシ群落	II	III	
		ウラジロガシ群落	II	III	
		アカガシ群落	III	III	
	暖温帯針葉樹林	モミ群落	IV	III	
		カヤ群落	III (注2)	III	
		イヌマキ群落	III	II	
		アカマツ群落〔自然植生〕	I	I	
	落葉広葉樹林	ケヤキ群落〔ヤブツバキクラス〕	III	III	
		エノキ群落	IV	IV	
		ムクノキ群落	III	II	
		ムクロジ群落	IV	IV	
		沼沢林	ハンノキ群落	なし	I
		オオタチヤナギ群落	II (河辺草本群落)	II	
	海岸低木群落	ハマボウ群落	III	III	
	海岸風衝低木群落	トベラ群落	IV	IV	
		ハマヒサカキ群落	IV	IV	
		ハマビワ群落	IV	IV	
		マルバニッケイ群落	III	III	
	ヤブツバキクラス域代償植生	常緑広葉樹二次林	マテバシイ群落	IV	IV
			ヤブツバキ群落	II (注3), III (注4)	III
			サザンカ群落	III	III
			タマミズキ群落	III	III
		落葉広葉樹二次林	コナラ群落	II (雑木林)	III
			クロモジ群落	III	III
		常緑針葉樹二次林	アカマツ群落〔代償植生〕	I	I
			クロマツ群落	II	II
			ヒモツル群落	II	II
		二次草原	ススキ群落	II	II

植生区分	相観区分	群落名	カテゴリー2001	新カテゴリー	
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	中間湿原	スマガヤ群落	I～II (湿生植物群落)	I	
		オオミズゴケ群落	I～II (湿生植物群落)	II	
		ミヤマシラスゲ群落	I～II (湿生植物群落)	III	
		コイヌノハナヒゲ群落	I～II (湿生植物群落)	I	
		シロイヌノヒゲ群落	I～II (湿生植物群落)	II	
		ツクシクロイヌノヒゲ群落	I～II (湿生植物群落)	I	
	低層湿原	ヨシ群落	II (河辺草本群落)	III	
		マコモ群落	II (河辺草本群落)	IV	
		ツクシオオガヤツリ群落	II	II	
	河辺冠水草原	オギ群落	II (河辺草本群落)	II	
	浮葉・沈水草原	ヒツジグサ群落	II (ため池水生植物群落)	I	
		ガガブタ群落	II (ため池水生植物群落)	I	
		オグラコウホネ群落	I～II (湿生植物群落)	II	
		セキシウモ群落	II	II	
		ガシャモク群落	II	II	
		リュウノヒゲモ群落	なし	II	
		アマモ群落	なし	III	
	塩沼地植生	シオクグ群落	I	III	
		フクド群落	I	I	
		ナガミノオニシバ群落	I	II	
		シバナ群落	I	I	
		ハマサジ群落	I	I	
		ハママツナ群落	I	II	
		ヒロハマツナ群落	I	II	
		アイアシ群落	I (塩沼地植物群落)	II	
		ヒトモトススキ群落	I (塩沼地植物群落)	II	
		イセウキヤガラ群落	I (塩沼地植物群落)	II	
		海岸砂丘植生	コウボウムギ群落	II	II
			ケカモノハシ群落	II (コウボウムギ群落)	II
			コウボウシバ群落	なし	II
	ツルナ群落		なし	IV	
	ハマゴウ群落		なし	IV	
	ハマオモト群落		II	II	
	海岸断崖地植生	ダルマガク群落	III	III	
		ゲンカイイワレンゲ群落	I	I	
		ボタンボウフウ群落	III (ダルマガク群落)	IV	
		ハチジョウススキ群落	IV	IV	
	植林地・耕作地植生	植林	スギ群落〔巨木林〕	III	III
			クスノキ群落〔巨木林〕	IV	IV
			キンメイモウソウチク群落	IV	IV
	合 計		89群落		

(注1) 複合群落「城山の自然林」のカテゴリー  
(注2) 複合群落「竜ヶ鼻の自然林」のカテゴリー

(注3) 複合群落「河頭山の照葉樹林」のカテゴリー  
(注4) 複合群落「油山の自然林」のカテゴリー

表 群落-3 危機要因の件数

危機要因	件数	危機要因	件数
自然災害	25	土地造成	7
遷移進行	20	病害虫	7
海岸開発	17	湿地開発	5
河川開発	15	外来種侵入	5
踏みつけ	13	石灰採掘	4
管理放棄	13	ため池改修	4
園芸採取	12	競合種拡大	4
産地局限	12	森林伐採	2
水路改修	11	湖沼開発	2
水質汚濁	10	その他	8
シカ増加	9		

重複選択のため、選定群落数(89群落)と一致しない

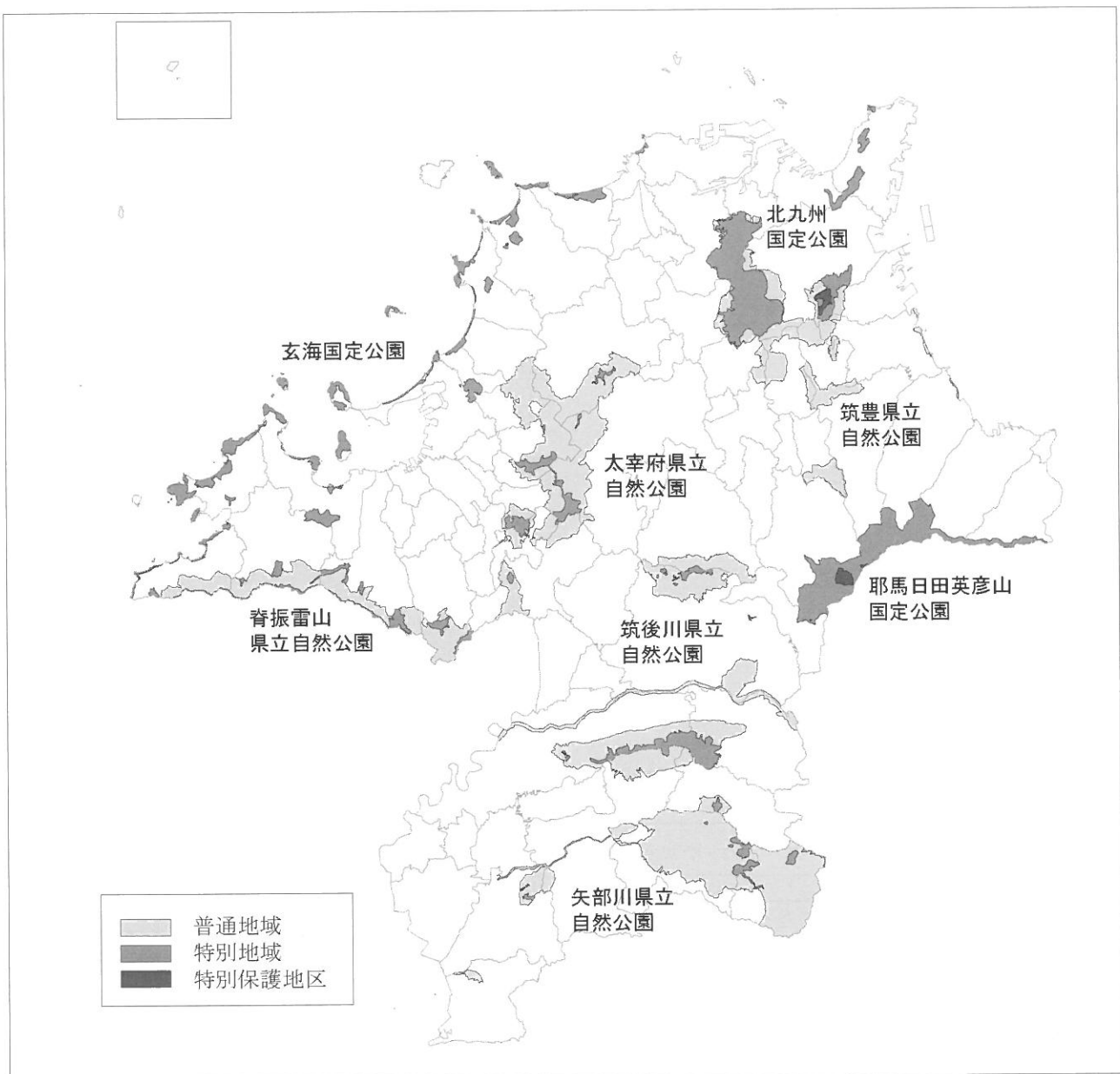


図 群落-1 福岡県の自然公園



表 群落-4 福岡県の環境省特定植物群落一覧

番号	名称	番号	名称
【1】	部崎のトベラ低木林	【60】	雁の巣の海浜植物群落
【3】	椎田海岸のクロマツ林	【61】	志賀島のマテバシイ林
【4】	求菩提山のヒメシヤガ群落	【62】	香椎宮のスダジイ林
【5】	求菩提山のアカガシ林	【63】	志賀島のスダジイ林
【6】	犬ヶ岳の自然林	【64】	南公園のスダジイ林
【7】	平山観音寺のスダジイ林	【65】	鴻巣山のマテバシイ林
【8】	伊川の天疫神社のスダジイ林	【66】	春日神社のスダジイ林
【9】	軽子島のゲンカイイワレンゲ群落	【67】	油山のアカマツ林
【10】	津村島のヤブニッケイ林	【68】	筑紫耶馬溪のスダジイ林
【11】	日合神社のスダジイ林	【69】	脊振山の自然林
【12】	吉志の天疫神社のスダジイ林	【70】	矢部川の河辺草本群落
【13】	沼八幡のスダジイ林	【71】	柳川のクリーク水生植物群落
【14】	河頭山の照葉樹林	【72】	玄界島のハマオモトを含む海浜植物群落
【15】	帆柱山の照葉樹林	【73】	瑞梅寺川河口の塩沼地植物群落
【16】	白山神社のタブ林	【74】	彦山海岸の断崖風衝地群落
【17】	荘八幡のスダジイ林	【75】	幣の松原の砂丘植物群落
【18】	八旗八幡のスダジイ林	【76】	芥屋のハマヒサカキ低木林を含む海岸斜面の植物群落
【19】	平尾台の石灰岩台地植物群落	【77】	姫島のハマオモトを含む海浜植物群落
【20】	竜ヶ鼻の自然林	【78】	貴船神社のスダジイ林
【21】	福智山のケヤキ林	【79】	内尾薬師のアラカシ林
【22】	福智山の自然林	【80】	山田市白馬山のムクロジ林
【23】	御所ヶ谷のヒモヅルを含むアカマツ林	【81】	織幡神社のイヌマキ林
【24】	香春岳のイワシデ林	【82】	犬鳴峠のウラジロガシ林
【25】	大法山のスダジイ林	【83】	黒木町南部の湿原
【26】	益富山のスダジイ林	【84】	和白浜の海浜・塩沼地植物群落
【27】	鷹巣山のミズナラ林	【85】	小呂島のハチジョウススキ群落
【28】	英彦山のゲンカイイツツジ群落	【86】	雷山川下流のハマボウ群落
【29】	英彦山の自然林	【88】	豊前市大富神社のコジイ林
【30】	障子ヶ岳のヒノキ林	【89】	東大野八幡宮のスダジイ林
【31】	小石原の行者杉	【90】	上野峽のゲンカイイツツジ群落
【32】	鳥屋山のスダジイ林	【91】	岩石山のスダジイ林
【34】	釈迦, 御前岳の自然林	【92】	望雲台の岩角地植物群落
【36】	須賀神社のスダジイ林	【93】	小石原の湿原
【37】	芦屋海岸のトベラ低木林	【94】	池の山のオグラコウホネ群落
【38】	孔大寺山のスダジイ林	【95】	水巻町鷹見神社のムクノキ林
【39】	鐘崎のハマビワ低木林	【96】	三里松原のクロマツ林
【40】	さつき松原の海浜植物群落	【97】	野面の八所宮のスダジイ林
【41】	さつき松原のボウランを含むクロマツ林	【98】	笠置山のエノキを含む照葉樹林
【42】	遠賀川の河辺草本群落	【99】	篠栗町呑山のクロモジ林
【44】	八所宮のスダジイ林	【100】	若杉山のスギ林
【45】	城山の自然林	【101】	長岩山のサザンカの多いコジイ林
【46】	猪野のスダジイ林	【102】	高良山のモウソウキンメイチク林
【47】	砥石山のアカガシ林	【103】	千鳥池の水生植物群落
【48】	三郡・宝満山の自然林	【104】	油山観音のスダジイ林
【49】	竈門神社のスダジイ林	【105】	鬼ヶ鼻のアカガシ林
【50】	古処山のツゲ林	【106】	玄界島のタブ林
【51】	高良山のシイ(コジイ)林	【107】	志摩町姫島のマテバシイ林
【52】	高良台の湿生植物群落	【108】	白山多賀神社の照葉樹林
【53】	船小屋のクスノキ林	【109】	小倉南区お糸池のガシヤモク群落
【54】	清水山のコジイ林	【110】	牛斬山稜線の山地草原
【55】	中津宮のバクチノキを含むスダジイ林	【111】	田川市ロマンスが丘の石灰岩地草原
【56】	御岳神社のスダジイ林	【112】	鎮国寺の照葉樹林
【57】	大島のハマヒサカキ低木林	【113】	大根地山のアカガシ林
【58】	沖ノ島の自然林	【114】	小呂島嶽宮神社の照葉樹林
【59】	立花山のクスノキ林		

岩角地・風衝地植生		チャボツメレンゲ群落	カテゴリー I
ブナクラス域自然植生		2001: カテゴリー II (山地岩角地植物群落)	
選定理由	RDB2001 では山地岩角地植物群落としてカテゴリー II としていたが、生育地が限定されていること、生育面積が極めて小さく、生育地は岩体滑落などの可能性があることから、カテゴリー I が妥当と判断された。優占種のチャボツメレンゲは、県 RDB 絶滅危惧 IA 類・環境省 RL 絶滅危惧 II 類で、園芸用に採取される危険性がある。		
危機要因	園芸採取、自然災害、産地局限		
所在	八女市(旧黒木町)		
群落概要	RDB2001 の山地岩角地植物群落のうち、チャボツメレンゲが優占する群落。群落高は 5cm に過ぎず、チャボツメレンゲのほか、コケ類や地衣類を伴う。チャボツメレンゲ群集。		
特記事項	自然公園; 矢部川★。		
暖温帯針葉樹林		アカマツ群落〔自然植生〕	カテゴリー I
ヤブツバキクラス域自然植生		2001: カテゴリー I	
選定理由	自然植生としてのアカマツ群落は稜線や岩峰にわずかに見られるが、近年のマツ枯れにより減少の一途を辿っている。上野峡でもアカマツの個体数が減少し、照葉樹類が増加している。		
危機要因	自然災害、病害虫(マツノザイセンチュウ)、産地局限		
所在	福智町(旧赤池町)、八女市(旧黒木町)		
群落概要	上野峡では上層を 20m 前後のアカマツが占めるが、密度は低い。特に 30 年生以上になるとマツクイムシによる枯損個体が多く、大木は少なくなっている。亜高木層以下にスダジイ、アラカン、コナラ、ヤマハゼ、ソゴ、ネジキ、ヤマツツジなどがあり、下層はウラジロやコシダに覆われ、部分的にはゲンカイツツジ群落が点在する。		
特記事項	自然公園; 北九州, 矢部川★。特定植物群落; 90。		
沼沢林		ハンノキ群落	カテゴリー I
ヤブツバキクラス域自然植生		2001: カテゴリーなし	
選定理由	福岡地域や北九州地域に点在しているが、小規模であるため、RDB2001 では記載されなかった。都市近郊の丘陵地に位置するため、各地で開発の対象となり、消失したところもある。また、周辺の照葉樹の成長やスギ植林による被陰のため、衰退しているところが多い。優占種のハンノキは、県 RDB 絶滅危惧 IB 類。		
危機要因	湿地開発、土地造成、遷移進行、管理放棄(周辺樹林による被陰)		
所在	北九州市若松区・八幡西区、福岡市東区・博多区・中央区・早良区、大野城市ほか		
群落概要	ハンノキが優占する湿生林。主としてため池の後背地から谷底部に成立する。群落高は 15m になり、過湿地では高木層や亜高木層はハンノキのみで構成されるが、適湿地ではハゼノキ、アカメガシワ、クスノキ、シロダモなどが混生する。草本層は過湿地ではヒメゴウソ、ハイチゴザサ、ヒメアギスミレなど、適湿地ではホシダ、フユイチゴ、キツタ、ベニシダなどが生育する。場所によってはネザサが密生しているところもある。		
特記事項			

## 常緑針葉樹二次林

## アカマツ群落〔代償植生〕

## カテゴリー I

ヤブツバキクラス域代償植生

2001: カテゴリー I

選定理由	アカマツ林は、かつて薪炭林として日常生活に利用されていた。明治初期の「福岡県地理全誌」では、村落近くの山の植生に関する記載として、「松立ちや草と小松である」との表現が見られる。1960年代までは県内の山々で尾根筋から山腹～山麓にかけて、広範囲にアカマツ群落が認められていた。しかし、生活スタイルの変化から薪炭の利用は廃れ、広葉樹の成長が著しく、アカマツ群落はほとんど姿を消している。また、マツ枯れの被害も目立つ。
危機要因	遷移進行, 自然災害, 病虫害(マツノザイセンチュウ)
所在	福岡市南区[油山市民の森・自然観察の森], 大野城市[四王寺山] ほか
群落概要	油山では、自然観察センター南部の尾根筋を中心にアカマツ林が見られ、その樹齢は40年前後である。林内ではコナラを中心として、エゴノキ、ゴンズイ、コシアブラ、スダジイ、タブノキなどの広葉樹が本格的に成長を始めている。アカマツやマツツジ群集などに該当すると考えられる。
特記事項	自然公園; 太宰府。特定植物群落; 67。

## 中間湿原

## ヌマガヤ群落

## カテゴリー I

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等

2001: カテゴリー I～II (湿生植物群落)

選定理由	久留米市高良台の一角で小さな水流が流れ込む周囲に、かつてはヌマガヤの優占する湿原が見られた。しかしその後、周辺の開発による水路や水量の変化、共生する植物の繁茂などにより、現在では消滅寸前であるが、本県でただ1カ所の自生地しかも低標高地(約30m)の自生地としては貴重である。周辺は自衛隊演習地。優占種のヌマガヤは、県RDB絶滅危惧IA類。
危機要因	遷移進行, 競合種拡大(ネビキグサ), 産地局限
所在	久留米市[高良台]
群落概要	湿原中にヌマガヤがパッチ状に生育している所はあるが、もともと小面積である上にネビキグサ、カモノハシ、チガヤなどの生育に圧されて個体数が減少し、群落としては壊滅状態にある。
特記事項	特定植物群落; 52。

## 中間湿原

## コイヌノハナヒゲ群落

## カテゴリー I

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等

2001: カテゴリー I～II (湿生植物群落)

選定理由	山地の貧栄養湿地に成立し、10～40cm程度の背丈の低い植物より成る。県内にはもともと少なく、面積も限られていたが、下記要因などで更に減少して、絶滅寸前である。従って、カテゴリー I とする。
危機要因	水質汚濁, 遷移進行(周辺植生の繁茂, 乾性化), 自然災害(土砂流入), その他(イノシシによる攪乱)
所在	行橋市, 豊前市, 荻田町, 上毛町(旧大平村)
群落概要	コイヌノハナヒゲ, イトイヌノヒゲ, アリノトウグサ, ミミカキグサ, ムラサキミミカキグサ, モウセンゴケなどが混生する群落であるが、富栄養化するにつれてカリマタガヤ, コブナグサ, チゴザサ, ツボスミレなどが増加する。イトイヌノハナヒゲ群集に該当する。
特記事項	自然公園; 北九州★。特定植物群落 93 では消滅した。

中間湿原		ツクシクロイヌノヒゲ群落	カテゴリー I
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリー I～II (湿生植物群落)	
選定理由	傾斜の緩い池沼辺で泥質土砂が堆積した場所では、秋の水位低下に伴い草丈 10～20cm 程度の植物が短期間に群生する。もともと人為的な不安定な条件で成立する群落であるが、下記要因などで消滅する箇所が続出しているため、カテゴリー I とする。主構成種ツクシクロイヌノヒゲ(県 RDB・環境省 RL 絶滅危惧 II 類)は、本県を基準産地としており、植物種としても貴重である。		
危機要因 所在	ため池改修, 水質汚濁, 管理放棄(秋の水落とし), その他(イノシシによる攪乱) 行橋市, 豊前市, 上毛町(旧大平村), 築上町(旧椎田町), 久留米市		
群落概要	典型的な場所ではツクシクロイヌノヒゲやニッポンイヌノヒゲが群生し, サワトウガラシ, ヒナザサ, ミズユキノシタなどが若干混生する。やや砂礫の多い場所ではヒメホタルイやハリイが優占する。		
特記事項	特定植物群落 83 では消滅した。		
浮葉・沈水草原		ヒツジグサ群落	カテゴリー II
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリー II (ため池水生植物群落)	
選定理由	山間や丘陵地の比較的浅く, 起源の古い, 貧栄養の池沼に見られる。もともと自生地はそれほど多くなかったが, 水質汚濁や池沼周辺の樹木類の繁茂による太陽光の遮りなどにより更に減少している。RDB2001 ではため池水生植物群落としてカテゴリー II としていたが, 減少傾向にあるためカテゴリー I に変更した。現存する群生地は貴重である。		
危機要因 所在	湖沼開発, 水質汚濁, 管理放棄 豊前市, 上毛町(旧新吉富村), 築上町(旧椎田町), 嘉麻市(旧嘉穂町), 赤村ほか		
群落概要	池沼の比較的浅い箇所に生育し, ヒツジグサの純群落となる場合が多いが, やや富栄養化した池沼ではジュンサイ, フトヒルムシロ, ホソバミズヒキモ, カンガレイ, クロモなどが混生する。定期的な池沼水の循環が行われずに, 富栄養化が進行してヒツジグサが消滅する箇所が続出している。ヒツジグサージュンサイ群集。		
特記事項			
浮葉・沈水草原		ガガブタ群落	カテゴリー I
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリー II (ため池水生植物群落)	
選定理由	低山地や丘陵地の比較的浅いため池などに見られる。ヒツジグサ群落よりも, 幾分富栄養化が進んだ場所に成立する。ため池の改修, 水質汚濁, 周辺の照葉樹や植林による被陰のため, 各地で減少している。RDB2001 ではため池水生植物群落としてカテゴリー II としていたが, 減少傾向にあるためカテゴリー I に変更した。優占種のガガブタは, 県 RDB 絶滅危惧 II 類・環境省 RL 準絶滅危惧。		
危機要因 所在	ため池改修, 水質汚濁, 管理放棄, 競合種拡大(ヒシ) 北九州市八幡西区, 行橋市, 上毛町(旧大平村), 築上町(旧築城町)ほか		
群落概要	浮葉植物のガガブタが優占する水生植物群落。ガガブタ 1 種で構成される場合が多いが, 場所によってはヒツジグサ, ヒシなどが混生する。ヒシ-ガガブタ群集に該当する。		
特記事項			

塩沼地植生	フクド群落	カテゴリー I
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリー I (塩沼地植物群落)
選定理由	河川改修, 埋立などにより消失する危険性が高い。優占種のフクドは, 県 RDB 絶滅危惧 II 類・環境省 RL 準絶滅危惧。	
危機要因	河川開発, 海岸開発, 水路改修	
所在	北九州市門司区, 行橋市, 福岡市東区・西区, 久留米市(旧三潴町), 大川市ほか	
群落概要	RDB2001 の塩沼地植物群落のうち, フクドが優占する群落。塩沼地植生としては, 比較的内陸部の砂泥地に生育することが多い。群落高 0.3~1m で, フクド 1 種で構成されることが多いが, 場所によっては, ヨシ, ナガミノオニシバ, ウラギクなどが混生する。フクド群集。	
特記事項	特定植物群落; 73, 84。	
塩沼地植生	シバナ群落	カテゴリー I
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリー I (塩沼地植物群落)
選定理由	河川改修, 埋立などにより消失する危険性が高い。優占種のシバナは, 県 RDB 絶滅危惧 IB 類・環境省 RL 準絶滅危惧。	
危機要因	河川開発, 海岸開発, 水路改修, 遷移進行	
所在	北九州市若松区・八幡西区, 行橋市, 築上町(旧椎田町), 福岡市東区ほか	
群落概要	RDB2001 の塩沼地植物群落のうち, シバナが優占する群落。河口付近の塩湿地に塊状に見られ, 群落高は 0.2m 程度。シバナ 1 種で構成されることが多いが, シオクグ, ヨシなどがわずかに混生することもある。シバナ群集。	
特記事項	特定植物群落; 84。	
塩沼地植生	ハマサジ群落	カテゴリー I
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリー I (塩沼地植物群落)
選定理由	河川改修, 埋立などにより消失する危険性が高い。優占種のハマサジは, 県 RDB 絶滅危惧 II 類・環境省 RL 準絶滅危惧。	
危機要因	河川開発, 海岸開発, 水路改修	
所在	北九州市門司区・小倉南区, 行橋市, 豊前市, 築上町(旧椎田町), 福岡市東区・西区ほか	
群落概要	RDB2001 の塩沼地植物群落のうち, ハマサジが優占する群落。円礫を含む砂泥地に生育していることが多い。群落高 0.3m 程度で, 密な群落を形成することもある。ハマサジが優占するほか, ハママツナ, ホソバハマアカザ, フクドなどが混生する。ハマサジ群集。	
特記事項	特定植物群落; 73。	

海岸断崖地植生		ゲンカイワレンゲ群落	カテゴリ I
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリ I	
選定理由	優占種のゲンカイワレンゲは、県 RDB 絶滅危惧 IB 類・環境省 RL 絶滅危惧 II 類。生育地に容易に立ち入ることができるため、盗掘により群落が消滅する危険性が高い。		
危機要因 所在	園芸採取、踏みつけ、産地局限 北九州市門司区		
群落概要	ゲンカイワレンゲが優占する群落。海岸断崖上に生育し、ゲンカイワレンゲのほか、ハマナデシコ、ハマナタマメ、シマカンギク、ホソバワダンなどで構成される。		
特記事項	特定植物群落;9。		
落葉広葉樹林		ブナ群落	カテゴリ II
ブナクラス域自然植生		2001: カテゴリ II	
選定理由	英彦山地および古処山地では、シカ食害による林床植生の貧弱化が急激に進行し、樹種によっては剥皮による枯死も見られる。また、英彦山地、屏山、釈迦岳の稜線部では、1991 年の台風被害以降に生じた高木枯損が依然として進行している。脊振山地や三郡山地ではほぼ健全であるので、県全体の評価としてはカテゴリ II が妥当。		
危機要因 所在	シカ増加、自然災害 福岡市早良区・糸島市(旧前原市)[脊振山地]、太宰府市・筑紫野市・宇美町・飯塚市(旧筑穂町)[三郡山地]、朝倉市(旧甘木市)・嘉麻市(旧嘉穂町)[古処山地]、添田町・豊前市[英彦山地]、八女市(旧矢部村)[釈迦岳山地]		
群落概要	ブナクラス域自然植生を代表する落葉広葉樹林。英彦山や犬ヶ岳では群落高 20m になり、高木層はブナのほか、ミズナラ、クマシデ、イヌシデなどを伴う。亜高木層はコハウチワカエデ、リョウブ、低木層はシロモジ、オオカメノキ、タンナサワフタギ、ベニドウダンなどで構成される。草本層は英彦山地ではクマイザサ、釈迦岳ではスズタケ、脊振山地ではミヤコザサが優占する。ブナーシラキ群集。		
特記事項	自然公園;耶馬日田英彦山★、脊振雷山★、太宰府★、筑後川★、矢部川★。保護林;犬ヶ岳。特定植物群落;6, 29, 34, 48, 69。英彦山ではブナ林再生の取組が行われている。		
冷温帯針葉樹林		ツクシシャクナゲ群落	カテゴリ II
ブナクラス域自然植生		2001: カテゴリ I	
選定理由	優占種のツクシシャクナゲは園芸用に採取される可能性がある。また、林道沿いの植分では強度の踏みつけが生じているところもある。生育地が自然公園に指定されていること、シカの食害を受けていないこと、1991 年の台風被害以降に生じた高木枯損による直接影響を受けていないことから、カテゴリ II に変更した。		
危機要因 所在	園芸採取、踏みつけ 豊前市[犬ヶ岳]、福岡市早良区[脊振山]、太宰府市・宇美町[宝満山・三郡山]、添田町[英彦山]、八女市(旧矢部村)[釈迦岳・御前岳]		
群落概要	ブナクラス域自然植生の低木個体群。ヒノキーツクシシャクナゲ群集およびブナーシラキ群集の低木層に見られるツクシシャクナゲ個体群を抽出したもの。		
特記事項	自然公園;耶馬日田英彦山★、脊振雷山★、太宰府★、矢部川★。国天;犬ヶ岳ツクシシャクナゲ自生地。特定植物群落;6, 29, 34, 48, 69。		

岩角地・風衝地植生		イワヒバ群落	カテゴリー II
ブナクラス域自然植生		2001: カテゴリー II (山地岩角地植物群落)	
選定理由	岩体および表土の滑落(1985年の日向神, 1991年の英彦山)後の植生回復がわずかである。新たに滑落したところもある。優占種のイワヒバは、特に手に届くところでは園芸用に採取されている。		
危機要因	園芸採取, 自然災害		
所在	添田町[英彦山地], 八女市(旧黒木町, 旧矢部村)[日向神]		
群落概要	RDB2001の山地岩角地植物群落のうち, イワヒバが優占する群落。群落高 10cm 程度で, イワヒバのほか, イワギボウシ, キハギ, シノブ, カタヒバなどが混生し, コケ類や地衣類を伴う。		
特記事項	自然公園; 耶馬日田英彦山★, 矢部川★。		
岩角地・風衝地植生		ツメレンゲ群落	カテゴリー II
ブナクラス域自然植生		2001: カテゴリー II (山地岩角地植物群落)	
選定理由	1991年の台風による表土の滑落後の植生回復がわずかである。新たに滑落したところもある。優占種のツメレンゲは, 県 RDB 絶滅危惧 IA 類・環境省 RL 準絶滅危惧で, 園芸用に採取されている。		
危機要因	園芸採取, 自然災害		
所在	添田町・豊前市・築上町(旧築城町)[英彦山地]		
群落概要	RDB2001の山地岩角地植物群落のうち, ツメレンゲが優占する群落。群落高 10cm 程度で, ツメレンゲのほか, イワヒバ, シノブなどが混生し, コケ類や地衣類を伴う。		
特記事項	自然公園; 耶馬日田英彦山★。		
暖温帯針葉樹林		イヌマキ群落	カテゴリー III
ヤブツバキクラス域自然植生		2001: カテゴリー III	
選定理由	県内の寺社境内には植栽されたイヌマキの大径木が見られるが, 当群落のイヌマキは胸高直径や樹高にばらつきがあり, 照葉樹類に交じって散生しているので自生と考えられる。台風による風倒害が発生しており, カテゴリー II とした。		
危機要因	自然災害(風倒害)		
所在	宗像市(旧玄海町)[鐘崎織幡神社]		
群落概要	イヌマキ, シマモクセイ, タブノキなどが林冠を形成し, 林床にトベラ, ハマビワ, フウトウカズラ, オニヤブソテツ, コバノカナワラビ, ホソバカナワラビ, ノシラン, キノクニスゲ, ムサシアブミなどが密生または散生するタブノキ・ムサシアブミ群集の一型である。		
特記事項	自然公園; 玄海★。県天; 織幡神社のイヌマキ天然林。特定植物群落; 81。		

落葉広葉樹林		ムクノキ群落	カテゴリー II
ヤブツバキクラス域自然植生		2001: カテゴリー III	
選定理由	遠賀川河口域の小丘上の深土適潤地に生じる常緑落葉広葉樹高木林。県内照葉樹林帯の谷沿いにも相観が類似する群落があるが、平野部丘陵斜面のムクノキ優占林は少ない。木材腐朽菌による枯損が目立つようになったためカテゴリー II とした。		
危機要因 所在	遷移進行, 病害虫(木材腐朽菌) 水巻町[鷹見神社]		
群落概要	ムクノキ, エノキ, シイノキ, クスノキ, ヤブニッケイ, ホルトノキなどが林冠を形成し, 林床にタブノキ, サンゴジュ, フウトウカズラ, ノシラン, ヤブラン, ムサシアブミ, オニヤブソテツ, ホソバカナワラビなどが密生または散生するタブノキ・ムサシアブミ群集の一型である。		
特記事項	環境省特定植物群落: 95。		

沼沢林		オオタチヤナギ群落	カテゴリー II
ヤブツバキクラス域自然植生		2001: カテゴリー II (河辺草本群落)	
選定理由	各地の河川で河川林を形成するが, 河川敷内に見られる高木は, 河川改修や河川管理によって伐採・除去される傾向があり, 消失の危険性がある。RDB2001 では河辺草本植物群落に含まれて記載されていた。		
危機要因 所在	河川開発, 湿地開発, 水路改修 福岡市南区, 那珂川町, 久留米市, 柳川市, 八女市ほか		
群落概要	河辺の高水敷やため池後背湿地などに成立するヤナギ林。群落高は 10m に達し, 高木層はオオタチヤナギ 1 種で構成されることが多い。草本層には, ミゾソバ, セリ, ヨシ, クサヨシなどの湿生植物が生育する。アカメヤナギ・ジャヤナギ群集に該当する。		
特記事項			

常緑針葉樹二次林		クロマツ群落	カテゴリー II
ヤブツバキクラス域代償植生		2001: カテゴリー II	
選定理由	依然としてマツ枯れが続いている。森林管理はおおむね行き届いているが, 地域によっては遷移が進行し, 中・下層に照葉樹類が繁茂している。また, クロマツ伐倒木が放置された所も見られる。		
危機要因 所在	管理放棄, 遷移進行, 病害虫(マツノザイセンチュウ) 岡垣町・芦屋町[三里松原], 築上町(旧椎田町)[椎田海岸], 福岡市東区[海の中道], 福岡市西区[大原松原], 宗像市(旧玄海町)[さつき松原], 古賀市[古賀松原], 福津市(旧福岡町)[福岡海岸], 糸島市(旧志摩町)[幣の松原], 新宮町[新宮松原]ほか		
群落概要	砂防防潮林として植栽されたクロマツ林である。群落高は林齢のほか, 風衝の程度によって変化し, 最大 25m に達する。さつき松原や椎田海岸などでは, 高木層にクロマツが優占し, 中層以下にヤブニッケイ, ヒメユズリハ, クスノキなどの照葉樹が見られ, 腐葉土層が厚い林分となっている。また, 幣の松原などでは, 中層は疎開, 林床に草本やコケ類が生育し, 腐葉土層が薄い林分となっている。		
特記事項	自然公園; 玄海★, 筑豊。特定植物群落: 3, 41, 75, 96。三里松原, さつき松原, 新宮松原などでは保全の取組が行われている。		



常緑針葉樹二次林		ヒモヅル群落	カテゴリー II
ヤブツバキクラス域代償植生		2001: カテゴリー II	
選定理由	ヒモヅルは、インドからニューギニアにかけての熱帯地域では広く分布している、つる性植物である。国内では、紀伊半島、中国地方西部、九州地方などの一部の地域に分布し、福岡県では行橋市が唯一の群落である。かつては生け花の材料として乱獲されていたが、現在は地元住民により保護されている。ヒモヅルは県 RDB 絶滅危惧 IB 類・環境省 RL 絶滅危惧 II 類に評価されている。		
危機要因	園芸採取、産地局限		
所在	行橋市		
群落概要	群落の成立地域は、アカマツを含むクロキ、クリ、リョウブ、カマツカなどの陽樹を中心とした亜高木層の雑木林内で、林床部には草丈 1.5m 前後のウラジロが密生している。林床部は湿度が高く、ヒモヅルはそこから樹木へは上がりしている。		
特記事項	特定植物群落;23		
二次草原		ススキ群落	カテゴリー II
ヤブツバキクラス域代償植生		2001: カテゴリー II (ススキ・ネザサ群落)	
選定理由	ススキ草原は、歴史的には茅場として日常生活に利用されてきた群落である。江戸時代～昭和の初めまでは、牛馬の餌、小屋の敷物、茅葺きの屋根材として毎日利用されていた。福岡平野南部～朝倉～筑後平野には、各所に「大行事」の石碑が残されている。これは、近年は各地の鎮守社に移されているが、かつては茅場の中央に祭られ、牛馬の成長・安全が祈られていたものである。		
危機要因	管理放棄、遷移進行		
所在	北九州市小倉南区・荻田町[平尾台]、筑前町(旧夜須町)[夜須高原]、飯塚市[龍王山]、田川市[ロマンスが丘]、香春町[香春岳]、香春町・福智町(旧方城町)[牛斬山稜線]、添田町[英彦山鷹巣原]。このほか、各地の山地公園の一部やため池の堤斜面など		
群落概要	ススキ、ネザサが優占し、オトコヨモギ、オカトラノオ、ワラビ、サルトリイバラ、コマツナギ、ヤマハッカ、マルバハギなどを伴う。更に平尾台ではミシマサイコ、アキカラマツ、ヒメヒゴタイ、アキノキリンソウ、リンドウなどが出現する。ススキ・ネザサ群集。		
特記事項	自然公園;北九州★、筑豊★、国天;平尾台。特定植物群落;19, 110, 111。		
中間湿原		オオミズゴケ群落	カテゴリー II
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリー I～II (湿生植物群落)	
選定理由	かつて湿原周辺の貧栄養地では維管束植物の生育が見られずに、オオミズゴケの群生する箇所が各所に見られた。しかし園芸用の採取や踏みつけ、湿地の富栄養化や乾性化、他の植生の繁茂による被陰などにより群生地は極めて限定されるようになった。貧栄養湿原植生の一タイプとして重要である。オオミズゴケは県 RDB・環境省 RL 準絶滅危惧に評価されている。		
危機要因	湿地開発、園芸採取、踏みつけ、遷移進行		
所在	豊前市、築上町(旧椎田町、旧築城町)、筑紫野市、那珂川町、東峰村(旧小石原村)、嘉麻市(旧嘉穂町)、赤村		
群落概要	コケ層にオオミズゴケが優占する群落であり、その上層にキセルアザミ、ヒメシダ、ハイチゴザサ、ミヤマシラスゲなどの草本やリウツギやイヌツゲなどの低木が見られる。生育地が富栄養化、乾性化するにつれて、上記植物やススキ、ワラビ、ミゾソバ、ヤブイバラなどが増加して、オオミズゴケが減少していく。		
特記事項			

中間湿原		シロイヌノヒゲ群落	カテゴリ II
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリ I～II (湿生植物群落)	
選定理由	海拔 300～500m 前後のやや貧栄養の湿地や傾斜の緩い小河川周辺に見られ、草丈は 20～80cm 程度である。本県ではもともと多くない上に、個々の面積が狭いため、周辺植生の繁茂による被陰や下記の要因などで更に減少している。		
危機要因	湿地開発, 水質汚濁, 園芸採取, 遷移進行		
所在	豊前市, 苅田町, 上毛町(旧大平村), 築上町(旧椎田町, 旧築城町), 筑紫野市, 東峰村(旧小石原村), 八女市(旧黒木町)		
群落概要	アブラガヤ, オオハリイ, シロイヌノヒゲ, キセルアザミ, ホタルイ, コアゼガヤツリなどが混生し, 最下層にオオミズゴケが群生することがある。湿地の周辺にはノリウツギ, イヌツゲ, コムラサキ, ウメモドキ, ヤブイバラなどが生育する。富栄養化が進行すると, ミゾツバ, ヒメアシボソ, カサスゲ, ヘラオモダカなどが増加する。シロイヌノヒゲムラサキミミカキグサ群集。		
特記事項	自然公園;北九州★。特定植物群落;83。		
低層湿原		ツクシオオガヤツリ群落	カテゴリ II
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリ II	
選定理由	熱帯・亜熱帯原産のツクシオオガヤツリは国内では数県しか知られていない希少種で、福岡城の濠(県指定天然記念物)が基準産地である。その後古賀市や小郡市でも群生地が発見されたが、いずれも市街地周辺にあり、美観を保つための管理や水質の悪化、水量の減少などで生存が危ぶまれている。ツクシオオガヤツリは県 RDB・環境省 RL 絶滅危惧 IB 類に評価されている。		
危機要因	ため池改修, 水質汚濁, 外来種侵入(キショウブ), 競合種拡大(マコモ, ヨシ)		
所在	福岡市中央区, 古賀市, 小郡市		
群落概要	群生地ではツクシオオガヤツリの純群落になることが多いが、周辺ではヨシ, マコモ, キショウブ, ハス, スズメウリなどと競合する。また、ヒシ, オオカナダモ, ホテイアオイなどが水面に生育している場合もある。		
特記事項	県天;ツクシオオガヤツリ。特定植物群落;103。		
河辺冠水草原		オギ群落	カテゴリ II
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリ II (河辺草本群落)	
選定理由	河川下流域で、砂礫の堆積する場所に成立する。草丈は 1.5～2.0m 位であり、年数回の冠水にも耐える。元々不安定な場所に成立する植生であるが、下記要因で減少して群生地は限られる。		
危機要因	河川開発, 土地造成, 水路改修, その他(土砂採取)		
所在	遠賀川下流, 今川下流, 筑後川下流ほか		
群落概要	中心部ではオギの純群落となることが多いが、周辺部では土壌条件や水深の違いによりヨシ, ツルヨシ, マコモ, シロバナサクラタデ, ススキなどと混生する。土砂の攪乱が度重なるとセイタカアワダチソウ, クワモドキ, セイパンモロコシが増加する。オギ群集。		
特記事項	特定植物群落;42。		

浮葉・沈水草原		オグラコウホネ群落	カテゴリー II
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリー I～II (湿生植物群落)	
選定理由	本県の池沼には希少植物のオグラコウホネが群生しているところが 2, 3 見られる。そのうち最大の群落である八女市(旧星野村)麻生池では、自然状態が維持されていて安定しており、2000 年に県の天然記念物に指定されている。そのほかの池沼では、水質汚濁やそれに伴う他植生との競合による衰退が懸念される。類似種のヒメコウホネの記録もあり、同様に重要な群落である。オグラコウホネ、ヒメコウホネとも、県 RDB 絶滅危惧 IB 類・環境省 RL 絶滅危惧 II 類に評価されている。		
危機要因	水質汚濁, 外来種侵入(オオカナダモなど), 競合種拡大(ヒシなど)		
所在	久山町, 飯塚市(旧庄内町), 柳川市(旧三橋町), 八女市(旧星野村)		
群落概要	オグラコウホネの純群落となる場合が多く、星野村では一部でマコモが生育している。水質汚濁が進行した場所ではヒシが生育している。		
特記事項	県天; 麻生池のオグラコウホネ自生地, 久山町天然記念物; 石黒池のオグラコウホネ・ヒメコウホネ群落, 飯塚市天然記念物; 菰池のヒメコウホネ。特定植物群落; 94。		

浮葉・沈水草原		セキシウモ群落	カテゴリー II
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリー II	
選定理由	平地でありながら、導水路のため比較的きれいな小河川に生育している。一応安定しているが、生活排水の流入が見られ、下記のような危機要因もある。セキシウモは県 RDB 絶滅危惧 II 類に評価されている。		
危機要因	水路改修, 水質汚濁, 外来種侵入(オオカナダモ)		
所在	柳川市(旧柳川市, 旧三橋町)		
群落概要	約 4km の導水路にパッチ状に分布していて、場所による構成種の違いはあるが、セキシウモの密度が最も高い。次いでエビモ, ヤナギモ, クロモ, ササバモなどが多い。一部でオオカナダモが侵入しているが、今のところ限定的である。		
特記事項	特定植物群落; 71。		

浮葉・沈水草原		ガシャモク群落	カテゴリー II
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリー II	
選定理由	平尾台の東麓に石灰岩地からの湧水による小さなため池があり、日本でもごく稀な沈水植物のガシャモクが生育している。かつて利根川水系の手賀沼や印旛沼および琵琶湖周辺でも生育していたが、干拓や水質汚濁などで激減または消滅した。ガシャモクは県 RDB・環境省絶滅危惧 IA 類に評価されており、国内唯一の安定的な自生地として貴重である。		
危機要因	管理放棄, 産地局限		
所在	北九州市小倉南区		
群落概要	石灰岩地から直接流れ込む貧栄養の池で、水深は 3m ほどである。深いところではガシャモクが純群落を形成しており、やや浅い場所ではインバモ(ガシャモクとササバモの雑種)が増加する。		
特記事項	特定植物群落; 109。		

浮葉・沈水草原		リュウノヒゲモ群落	カテゴリー II
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリーなし	
選定理由	海岸近くの汽水性の池沼に生育する。いずれの生育地も埋立や水質汚濁、ゴミの不法投棄などにより消滅の危機にある。リュウノヒゲモは県 RDB 絶滅危惧 IB 類・環境省 RL 準絶滅危惧に評価されており、種としても貴重である。類似種のカワツルモの記録もあり、同様に重要な群落である。		
危機要因 所在	湖沼開発, 土地造成, ため池改修, 水質汚濁 北九州市若松区, 福岡市中央区・西区		
群落概要	リュウノヒゲモの純群落より成る。密度は塩分濃度や富栄養の度合いなどにより、著しく変化する。		
特記事項			

塩沼地植生		ナガミノオニシバ群落	カテゴリー II
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリー I (塩沼地植物群落)	
選定理由	河川改修, 埋立などにより消失する危険性がある。		
危機要因 所在	河川開発, 海岸開発, 水路改修 北九州市門司区・八幡西区, 行橋市, 福岡市東区・西区ほか		
群落概要	RDB2001 の塩沼地植物群落のうち, ナガミノオニシバが優占する群落。主として河口域の平坦な砂礫地に生育する。群落高 0.2~0.3m で密生し, ナガミノオニシバ 1 種で構成されることが多いが, ハマツナ, フクドなどが混生することもある。ナガミノオニシバ群集。		
特記事項	特定植物群落;73。		

塩沼地植生		ハマツナ群落	カテゴリー II
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリー I (塩沼地植物群落)	
選定理由	河川改修, 埋立などにより消失する危険性がある。		
危機要因 所在	河川開発, 海岸開発, 水路改修 北九州市門司区, 行橋市, 福岡市東区・西区ほか		
群落概要	RDB2001 の塩沼地植物群落のうち, ハマツナが優占する群落。主として海岸や河口の不安定な砂泥地に生育する。群落高 0.2m 程度で, 純群落を形成するほか, シオクグ, ハマサジ, ホソバハマアカザなどが混生することがある。ハマツナ-ホソバハマアカザ群集。		
特記事項	特定植物群落;73, 84。		

塩沼地植生		ヒロハマツナ群落	カテゴリー II
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリー I (塩沼地植物群落)	
選定理由	県内分布は有明海沿岸の河口域に限られる。河川改修、埋立などにより消失する危険性がある。優占種のヒロハマツナは、県 RDB 絶滅危惧 IB 類・環境省 RL 絶滅危惧 II 類。		
危機要因	河川開発, 産地局限		
所在	柳川市(旧柳川市, 旧大和町)		
群落概要	RDB2001 の塩沼地植物群落のうち、ヒロハマツナが優占する群落。河口域の泥地に生育し、河岸前面に帯状に分布することもある。群落高 0.3~0.4m で、純群落を形成するほか、シオクグ、シチメンソウ、ホソバハマアカザなどが混生することもある。		
特記事項			
塩沼地植生		アイアシ群落	カテゴリー II
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリー I (塩沼地植物群落)	
選定理由	河川改修、埋立などにより消失する危険性がある。RDB2001 の塩沼地植物群落(複数群落を含む。)には、構成群落としての記載がないが、県内では比較的少ない植生であり、危機要因を有する塩沼地植生の一つとして、カテゴリー II が妥当と判断される。		
危機要因	河川開発, 水路改修		
所在	行橋市[祓川河口], 福岡市東区[多々良川河口], 柳川市[矢部川下流, 筑後川下流, 沖端川下流]ほか		
群落概要	塩沼地植生の中では最も陸側に位置し、河川下流域に見られることもある。群落高は 1.5m 程度で、ヨシ群落に似た相観を呈する。構成種は少なく、純群落を形成するほか、ヨシ、シオクグなどがわずかに混生する。アイアシ群集。		
特記事項			
塩沼地植生		ヒトモトスキ群落	カテゴリー II
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリー I (塩沼地植物群落)	
選定理由	海岸開発などにより消失する危険性がある。RDB2001 の塩沼地植物群落(複数群落を含む。)には、構成群落としての記載がないが、県内では比較的稀な植生であり、危機要因を有する塩沼地植生の一つとして、カテゴリー II が妥当と判断される。		
危機要因	海岸開発, 河川開発		
所在	福岡市東区[和白浜], 宗像市(旧玄海町)[釣川河口]ほか		
群落概要	主として河口域の小凹地に生育する。沿岸域の湿地に見られることもある。群落高 1.5~2.0m 程度で、カヤツリグサ科のヒトモトスキが密生し、純群落を形成することが多い。ヨシなどの湿生植物、テリハノイバラ、ヤイトバナなどのつる植物が混生することもある。ヒトモトスキ群集。		
特記事項	自然公園; 玄海★。特定植物群落; 84。		

塩沼地植生	イセウキヤガラ群落	カテゴリー II
-------	-----------	----------

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等

2001: カテゴリー I (塩沼地植物群落)

選定理由	河川改修、埋立などにより消失する危険性がある。優占種のイセウキヤガラは、県 RDB 絶滅危惧 II 類。RDB2001 の塩沼地植物群落(複数群落を含む。)には、構成群落としての記述がないが、県内分布が限られており、危機要因を要する塩沼地植生の一つとして、カテゴリー II が妥当と判断される
危機要因 所在	河川開発、産地局限 柳川市・大川市[筑後川河口]
群落概要	満潮時には完全に水没する泥地に生育し、塩沼地植生の中では分布の最前線に位置する。群落の高さは 0.4～0.7m で、イセウキヤガラ 1 種で構成される純群落となる。イセウキヤガラ群集。
特記事項	

海岸砂丘植生	コウボウムギ群落	カテゴリー II
--------	----------	----------

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等

2001: カテゴリー II

選定理由	防潮護岸の建設や飛砂防止工事などにより消失する危険性がある。外来種のオオフトバムグラが侵入しているところがある。
危機要因 所在	海岸開発、踏みつけ、外来種侵入(オオフトバムグラ) 岡垣町・芦屋町[三里松原]、福岡市東区[雁の巣]、宗像市(旧玄海町)[さつき松原]、糸島市(旧志摩町)[幣の松原]ほか
群落概要	砂の移動が激しく、海からの塩分や強風の影響を強く受ける砂丘最前線の不安定立地に生育する。群落高 0.2m 程度で、コウボウムギが優占し、ハマヒルガオ、ハマニガナ、ネコノシタなどが混生する。ケカモノハシを欠くことでケカモノハシ群落と区別される。コウボウムギーネコノシタ(ハマグルマ)群集。
特記事項	自然公園;玄海★。特定植物群落;40, 60, 75。

海岸砂丘植生	ケカモノハシ群落	カテゴリー II
--------	----------	----------

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等

2001: カテゴリー II (コウボウムギ群落)

選定理由	防潮護岸の建設や飛砂防止工事などにより消失する危険性がある。外来種のオオフトバムグラが侵入しているところがある。
危機要因 所在	海岸開発、踏みつけ、外来種侵入(オオフトバムグラ) 岡垣町・芦屋町[三里松原]、福岡市東区[雁の巣]、宗像市(旧玄海町)[さつき松原]、糸島市(旧志摩町)[幣の松原]ほか
群落概要	RDB2001 ではコウボウムギ群落に含めて記載。砂丘の半安定立地に成立する。群落高 0.3～0.5m で、ケカモノハシが塊状になって優占し、コウボウムギ、ハマヒルガオ、ハマニガナ、ネコノシタなどで構成される。ハマボウフウ、オニシバなどが混生することもある。ケカモノハシーネコノシタ(ハマグルマ)群集。
特記事項	自然公園;玄海★。特定植物群落;40, 60, 75。

海岸砂丘植生		コウボウシバ群落	カテゴリⅡ
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等			2001: カテゴリなし
選定理由	防潮護岸の建設や飛砂防止工事などにより消失する危険性がある。RDB2001 には記載されていなかったが、コウボウムギ群落、ケカモノハシ群落と同様に危機要因を有する海岸砂丘植生であり、カテゴリⅡが妥当と判断される。		
危機要因	海岸開発, 踏みつけ		
所在	岡垣町・芦屋町[三里松原], 福岡市東区[雁の巣], 宗像市(旧玄海町)[さつき松原], 糸島市(旧志摩町)[幣の松原]ほか		
群落概要	コウボウシバが優占する群落。砂丘および隣接地の半安定立地に成立する。群落高 0.2m 程度で、コウボウシバが優占し、ハマヒルガオ, ハマニガナ, ケカモノハシなどが混生する。		
特記事項	自然公園; 玄海★。特定植物群落; 40, 60, 75。		
海岸砂丘植生		ハマオモト群落	カテゴリⅡ
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等			2001: カテゴリⅡ
選定理由	防潮護岸の建設や飛砂防止工事などにより消失する危険性がある。優占種のハマオモトは、県 RDB 絶滅危惧 IB 類。ハマオモトは園芸用に採取されるとともに、ハマオモトヨトウによる食害が各地で見られる。		
危機要因	海岸開発, 園芸採取, 踏みつけ, 病害虫(ハマオモトヨトウ)		
所在	芦屋町[夏井浜], 福岡市西区[玄界島], 糸島市(旧志摩町)[姫島]ほか		
群落概要	ハマオモトが優占する群落。礫質または砂質海岸の汀線やその内陸側に線状または帯状に生育する。ハマオモトのほか、ハマヒルガオ, ハマエンドウ, ハマダイコンなどの海岸植物, チガヤ, ギシギシ, ツルボなどの路傍植物が混生する。芦屋町夏井浜の群落は管理されており、純群落状になっている。		
特記事項	自然公園; 玄海★。県天; 夏井浜のハマユウ自生地。特定植物群落; 72, 77。		
落葉広葉樹林		ミズナラ群落	カテゴリⅢ
ブナクラス域自然植生			2001: カテゴリⅣ
選定理由	シカ食害による林床植生の貧弱化が急激に進行している。また、リョウブ, ベニドウダンなどの剥皮による枯死も一部に見られる。鷹ノ巣山ではミズナラ実生が見られる林分があることを考慮すると、カテゴリⅢへの変更が妥当と判断される。		
危機要因	シカ増加		
所在	豊前市・築上町(旧築城町)[犬ヶ岳], 添田町[鷹ノ巣山]ほか		
群落概要	ブナクラス域の自然林。群落高 17m になり、高木層はミズナラのほかに、クマシデ, アカシデ, イヌシデ, コハウチワカエデなどを伴う。亜高木層はリョウブ, シラキ, アオハダ, 低木層はタンナサワフタギ, ネジキ, コバノミツバツツジなどで構成される。草本層は鷹ノ巣山ではスズタケが優占するが、全く伴わない林分もある。犬ヶ岳ではクマイザサが優占する。ミズナラ-リョウブ群集。		
特記事項	自然公園; 耶馬日田英彦山★。特定植物群落; 6, 27。		

冷温帯針葉樹林		ツガ群落	カテゴリーⅢ
ブナクラス域自然植生		2001: カテゴリーⅣ(モミ群落)	
選定理由	生育面積が比較的小さいため、RDB2001 ではモミ群落に含まれる林分として記載された。英彦山地ではシカ食害による林床植生の貧弱化が進行していること、一部林分では、1991 年の台風被害からの回復途上であるが、林冠が開いた林分があることから、カテゴリーⅢが妥当と判断される。		
危機要因	シカ増加, 自然災害		
所在	添田町[英彦山地], 八女市(旧矢部村)[御前岳]		
群落概要	ブナクラス域の針葉樹林。群落高は 20m になり、高木層はツガが優占し、モミ、御前岳ではゴウマツを伴うことがある。亜高木層には、コハウチワカエデのほか、アカガシ、ウラジログアシなどが混生する。低木層はハイノキが優占し、シロモジ、シラキ、カヤなどが混生する。草本層はスズタケが優占する。ツガ-ハイノキ群集。		
特記事項	自然公園; 耶馬日田英彦山★, 矢部川★。保護林; 英彦山。		

冷温帯針葉樹林		ヒノキ群落〔自然植生〕	カテゴリーⅢ
ブナクラス域自然植生		2001: カテゴリーⅢ	
選定理由	1991 年の台風被害からの回復途上である。林床植物にはシカ食跡が部分的に見られるが、岩角地のため比較的被害は少ない。優占種のヒノキは、県 RDB 準絶滅危惧。		
危機要因	シカ増加, 自然災害		
所在	添田町[英彦山, 障子ヶ岳]		
群落概要	ブナクラス域の針葉樹林。岩角地の断崖上に生育する。群落高は 30m に達し、高木層はヒノキのほか、アカガシ、ブナ、ツガなどを散生する。亜高木層は発達せず、ネジキ、リュウブなどが見られ、低木層にはアセビ、ハイノキ、ツクシシヤクナゲなど、草本層にはツルミヤマシキミ、ミヤマシグレ、シシガシラなどが混生する。ヒノキ-ツクシシヤクナゲ群集。		
特記事項	自然公園; 耶馬日田英彦山★。特定植物群落; 30, 92。		

溪畔林		シオジ群落	カテゴリーⅢ
ブナクラス域自然植生		2001: カテゴリーⅣ	
選定理由	1991 年の台風被害からの回復途上である。分布域にはシカが侵入しているが、優占種のシオジにはシカ食跡が見られない。ツリバナ、ハナイカダ、ミヤマクマワラビなどの低木層・草本層の植物はシカ食害を受けているので、カテゴリーⅢへの変更が妥当と判断される。		
危機要因	シカ増加, 自然災害		
所在	添田町[英彦山]		
群落概要	ブナクラス域の落葉広葉樹林。大きな礫の溪谷斜面に見られる。群落高は 30m に達し、高木層はシオジのほか、サワグルミ、ミズメ、オニイタヤなどが混生する。亜高木層や低木層はチドリノキ、ヒノウチワカエデ、ヒコサンヒメシヤラ、ツリバナ、ハナイカダなどで構成され、草本層はミヤマクマワラビが優占し、イワガラミ、ツルアジサイ、コミヤマカタバミなどが生育する。シオジ-ミヤマクマワラビ群集。		
特記事項	自然公園; 耶馬日田英彦山★。保護林; 英彦山。特定植物群落; 29。		



溪畔林	ケヤキ群落〔ブナクラス〕	カテゴリーⅢ
ブナクラス域自然植生		2001: カテゴリーⅢ (ヤマザクラ群落)
<b>選定理由</b>	RDB2001 ではヤマザクラ群落として記載された。1991 年の台風到来後、ヤマザクラ高木の多くは、徐々に衰退・枯死し、ケヤキ優占林に変わりつつある。ケヤキ高木は健全状態を保っているため、ケヤキ群落としてはカテゴリーⅢが妥当と判断される。	
<b>危機要因</b>	遷移進行, 自然災害	
<b>所在</b>	八女市(旧星野村)[石割岳]	
<b>群落概要</b>	ブナクラスのケヤキ群落。礫の多い溪谷斜面に見られる。群落高は20m になり、高木層はケヤキのほか、クマノミズキ、ヤマザクラ、サワグルミなどが混生する。亜高木層にはリョウブ、アオハダ、シラキなど、低木層にはアブラチャン、サイゴクイボタ、ハナイカダなどが多い。草本層はミヤマクマワラビが優占し、イワガラミ、ツルアジサイ、ジューモンジシダなどが生育する。シオジ群落に組成が似た群落である。	
<b>特記事項</b>	八女市天然記念物;石割岳山桜群生林。ヤマザクラ個体群の再生の取組が行われた。	
落葉広葉樹二次林	イヌシデ群落	カテゴリーⅢ
ブナクラス域代償植生		2001: カテゴリーⅢ (アカシデーヌシデ群落)
<b>選定理由</b>	多くは保存状況良好であるが、犬ヶ岳では林床植物がシカ食害を受けている林分がある。	
<b>危機要因</b>	シカ増加	
<b>所在</b>	北九州市小倉南区・直方市・福智町(旧赤池町)[福智山地], 豊前市[犬ヶ岳], 福岡市早良区・糸島市(旧前原市)[脊振山地], 太宰府市・宇美町・筑紫野市・飯塚市(旧筑穂町)[宝満山, 三郡山], 朝倉市(旧甘木市)・嘉麻市(旧嘉穂町)[古処山]ほか	
<b>群落概要</b>	ヤブツバキクラス域上部～ブナクラス域の標高 500m 以上に見られる。群落高は 15m 程度になり、アカシデ、イヌシデのほか、ヤマボウシ、ウリハダカエデ、コンアブラなどを伴う。亜高木層や低木層には、タンナサワフタギ、ケクロモジ、ツリバナなどの落葉樹のほか、ヤブツバキ、シロダモ、カゴノキなどの常緑樹が混生する。草本層にはコガクウツギ、シシガシラ、ウンゼンカンアオイなどが生育する。アカシデーヌシデ群落。	
<b>特記事項</b>	自然公園;北九州★, 耶馬日田英彦山★, 脊振雷山★, 太宰府★, 筑後川★。特定植物群落 6, 21, 69。	
二次草原	ミヤコザサ群落	カテゴリーⅢ
ブナクラス域代償植生		2001: カテゴリーⅣ
<b>選定理由</b>	県内の群落は、伐採後に成立した二次草原と考えられる。脊振山地の群落は概して良好に維持されているが、植分によっては低木が侵入しつつある。馬見山の群落はシカ食害により消滅した。このため、県全体の評価としては、カテゴリーⅢへの変更が妥当と判断される。	
<b>危機要因</b>	シカ増加, 遷移進行	
<b>所在</b>	福岡市早良区・糸島市(旧前原町)[脊振山地], 嘉麻市(旧嘉穂町)[馬見山]	
<b>群落概要</b>	ミヤコザサが優占する草本群落。稜線部に見られる。ミヤコザサが密生するほか、リョウブ、ネジキ、イヌツゲ、コガクウツギ、コツクバネウツギなどの低木を散生する。	
<b>特記事項</b>	自然公園;脊振雷山★, 筑後川★。	

二次草原	クマイザサ群落	カテゴリーⅢ
------	---------	--------

ブナクラス域代償植生

2001: カテゴリーⅣ (ミヤコザサ群落)

選定理由	県内の群落は、放牧によって維持されてきた二次草原と考えられる。部分的に低木が侵入している。ミヤコザサと同様の立地に見られ、低木が侵入しつつあることから、カテゴリーⅢが妥当と判断される。
危機要因	遷移進行
所在	直方市・福智町(旧赤池町)[福智山]
群落概要	RDB2001 ではミヤコザサ群落に含めて記載。クマイザサが優占する草本群落で、山頂部斜面に見られる。クマイザサが密生するほか、リョウブ、ネジキ、イヌツゲ、コガクウツギ、コツクバネウツギなどの低木を散生する。
特記事項	自然公園;北九州★。

常緑広葉樹林	スダジイ群落	カテゴリーⅢ
--------	--------	--------

ヤブツバキクラス域自然植生

2001: カテゴリーⅢ

選定理由	スダジイ群落はヤブツバキクラスの自然植生の中では、ツブラジイ(コジイ)群落とともに最も代表的なものであり、西日本各地に見られる。県内では主に沿岸地の社寺境内等および標高 400~700m の内陸山地に残存する。老齢林では木材腐朽菌の侵入により、枯損風倒するものがある。分布域は人間の活動範囲と重なるので、ツブラジイ群落とともに大なり小なり人為的影響がうかがわれる。
危機要因	土地造成、踏みつけ(下草刈り、下木植栽を含む。), 自然災害(風倒害), 病虫害(木材腐朽菌)
所在	北九州市門司区・小倉南区, 福岡市東区・中央区, 春日市, 宗像市(旧玄海町), 太宰府市, 那珂川町, 久山町, 朝倉市(旧甘木市), 飯塚市, 嘉麻市(旧山田市)
群落概要	林冠優占種は沿岸地・内陸山地ともスダジイであるが、立地によっては他の照葉樹類がこれに代わることがある。種組成上、スダジイ-ミズバイ群集, スダジイ-ヤブコウジ群集とされる。
特記事項	自然公園;玄海★, 太宰府。特定植物群落;7, 8, 11, 12, 13, 17, 18, 25, 32, 36, 38, 44, 46, 49, 55, 56, 62, 63, 64, 66, 68, 78, 89, 91, 97, 104。福岡県自然環境保全地域(猪野)。福岡県環境指標の森。都市部では特別緑地保全地区に指定されている所もある。

常緑広葉樹林	ツブラジイ(コジイ)群落	カテゴリーⅢ
--------	--------------	--------

ヤブツバキクラス域自然植生

2001: カテゴリーⅢ

選定理由	ツブラジイ(コジイ)群落は、ヤブツバキクラスの自然植生の中ではスダジイ群落とともに最も代表的なものであり、西日本各地に見られ、県内で主に内陸の丘陵地に残存する。老齢林では木材腐朽菌の侵入により、枯損風倒するものがある。分布域は人間の活動域と重なり、スダジイ群落とともに何らかの人為的影響が見られる。
危機要因	土地造成、踏みつけ(下草刈り、下木植栽などを含む。), 病虫害(木材腐朽菌), 自然災害(風倒害)
所在	豊前市, 嘉麻市(旧嘉穂町), 久留米市, みやま市(旧瀬高町)
群落概要	林冠優占種はツブラジイであるが、立地によってはスダジイや他の照葉樹類と混生することがある。種組成上スダジイ群落とともに、スダジイ-ミズバイ群集, スダジイ-ヤブコウジ群集とされる。
特記事項	自然公園;筑後川★, 矢部川★。特定植物群落;26, 51, 54, 88。福岡県環境指標の森。

常緑広葉樹林		タブノキ群落	カテゴリーⅢ
ヤブツバキクラス域自然植生			2001: カテゴリーⅢ
選定理由	スダジイ群落、ツブラジイ群落とともに、西日本の代表的な照葉樹林。当群落は沿岸部の平野や丘陵の深土適潤地に広く分布していたと見られるが、古くから耕作地などとして開発されたため、典型的な群落は今日では離島や社寺境内に残存する程度である。沖ノ島ではオオミズナギドリ踏みつけにより林床植生は貧相であるが、風倒害跡地ではギャップ更新が見られる。		
危機要因	自然災害(風倒害), その他(沖ノ島の群落ではオオミズナギドリによる地表面攪乱)		
所在	北九州市若松区, 福岡市西区[玄界島], 宗像市(旧大島村)[沖ノ島]		
群落概要	林冠にタブノキが優占し, 他の照葉樹類を伴う照葉樹高木林。サンゴジュ, ハマビワ, ノシラン, ムサシアブミなどを伴い, タブノキームサシアブミ群集に同定される。		
特記事項	自然公園; 玄海★。福岡県自然環境保全地域(沖ノ島)。国天; 沖の島原始林。特定植物群落; 16, 58, 106。		
常緑広葉樹林		ヤブニッケイ群落	カテゴリーⅢ
ヤブツバキクラス域自然植生			2001: カテゴリーⅡ
選定理由	平尾台などの石灰岩台地植物群落の一つで, 定期的な火入れの影響を受けにくいドリーネ内に局在する。石灰採掘計画地に含まれず, 保存状態良好のためカテゴリーⅢに変更した。		
危機要因	その他(土砂の流入)		
所在	北九州市門司区[津村島], 北九州市小倉南区・行橋市・苅田町[平尾台]		
群落概要	林冠にヤブニッケイ, タブノキなどのクスノキ科樹木が優占し, シイ・カン類をほとんど伴わず, 林床にコバノチョウセンエノキなどの石灰岩植物が頻出する。ヤブニッケイヤマヤブソテツ群集とされる。		
特記事項	自然公園; 北九州★, 筑豊★。国天; 平尾台。特定植物群落; 10, 19。		
常緑広葉樹林		カゴノキ群落	カテゴリーⅢ
ヤブツバキクラス域自然植生			2001: カテゴリーⅢ (城山の自然林)
選定理由	RDB2001 の複合群落「城山(じょうやま)の自然林」より分割移行した。城山の中腹以上には, 自然植生としての照葉樹林が残存している。カゴノキ群落はそのうちの1群落であり, 標高200~300mに分布しており, 面積は少ない。		
危機要因	自然災害(風倒害)		
所在	宗像市・岡垣町[城山]		
群落概要	林冠にカゴノキやタブノキがシイ・カン類よりも優勢な高木林で, しばしばクスノキの大径木が見られる。林相や組成はシイ群落に似る。主に城山の南面中腹以上に分布する。		
特記事項	保護林; 狩倉。特定植物群落; 45。		

常緑広葉樹林	アラカシ群落	カテゴリーⅢ
--------	--------	--------

ヤブツバキクラス域自然植生

2001: カテゴリーⅡ

選定理由	石灰岩地帯の高木林または亜高木林で、林内に石灰岩植物が頻出する。急崖地や稜線部に見られる。石灰採掘計画地に含まれず、保存状態良好のためカテゴリーⅢに変更した。
危機要因 所在	石灰採掘 荊田町, 香春町
群落概要	林冠にアラカシが優占し、ヤブニッケイ, カゴノキ, イロハモミジなども生じる。林内にビワ, ナンテン, オニシバリ, コバノチョウセンエノキなどの石灰岩植物が頻出する。アラカシ-ナンテン群集に同定される。
特記事項	自然公園; 筑豊。特定植物群落; 79, 24。

常緑広葉樹林	ウラジロガシ群落	カテゴリーⅢ
--------	----------	--------

ヤブツバキクラス域自然植生

2001: カテゴリーⅡ

選定理由	林冠にウラジロガシが優占する照葉樹高木林で、斜面、稜線沿い、山頂部に残存する。群落高は約 20m。保存状態良好のためカテゴリーⅢとした。
危機要因 所在	石灰採掘(香春岳), 自然災害(風倒害) 宗像市・岡垣町, 久山町, 香春町
群落概要	犬鳴峠, 城山では林冠にウラジロガシまたはイスノキが優占するほか、シイ・カシ類, クスノキ科高木類などを交え、林床にはホソバタブ, シキミなど多くの照葉樹林植物が出現する。香春岳ではウラジロガシが高木層優占種でイスノキを欠く。群落の外観や種組成は前者に似るが、イワシデ, イワツクバネウツギ, オオコマユミ, バイカウツギ, シロバナハンショウヅルなどの石灰岩植物が頻出する。ウラジロガシ-イスノキ群集に該当する。
特記事項	自然公園; 太宰府, 筑豊。保護林; 上畑。特定植物群落; 82, 45, 24。

常緑広葉樹林	アカガシ群落	カテゴリーⅢ
--------	--------	--------

ヤブツバキクラス域自然植生

2001: カテゴリーⅢ

選定理由	アカガシ群落は北部九州の山地に特徴的に分布する群落で、照葉樹林帯最上部に位置する。県内では標高約 600~900m の斜面中部から尾根筋にかけて群落を形成する。
危機要因 所在	森林伐採 北九州市小倉南区, 福岡市早良区, 筑紫野市, 太宰府市, 宇美町, 飯塚市(旧筑穂町)
群落概要	林冠にアカガシが優占し、下層にヤブツバキ, クロキ, シロダモ, アオキ, ハイノキ, シキミ, カクレミノ, ツルミヤマシキミ, キジノオシダなどが生じる。アカガシは用材として重用・伐採されたため、純林状の萌芽林が多いが、上記所在地のアカガシ林は自然林と認められる。アカガシ-ミヤマシキミ群集。
特記事項	自然公園; 北九州★, 太宰府★, 脊振雷山★。保護林; 大根地。特定植物群落; 22, 47, 48, 105, 113。

暖温帯針葉樹林		モミ群落	カテゴリーⅢ
ヤブツバキクラス域自然植生			2001: カテゴリーⅣ
選定理由	モミ群落は照葉樹林帯上部から夏緑樹林帯下部にかけて生じる針葉樹高木林で、県内では分布域が限られている。英彦山ではシカによる林床植生の食害が起きているため、また、稚樹がなく、アカガシ林への遷移が進行している地域もあるため、カテゴリーⅢへ変更した。		
危機要因	シカ増加、遷移進行、自然災害(風倒害)		
所在	太宰府市・筑紫野市[宝満山]、朝倉市(旧甘木市)[屏山]、添田町[英彦山]、		
群落概要	モミが優占し、シキミ、ハイノキ、キッコウハグマなどが混生する。照葉樹林植物として、アカガシ、ウラジログシ、シキミ、ヤブツバキ、シロダモ、ヒサカキなど、夏緑樹林植物としてブナ、コハウチワカエデ、シラキ、ツリバナ、カナクギノキなどを伴う。英彦山では標高770～950m、宝満山では680～850mに生じ、屏山では850m付近に小規模群落が見られる。モミーコガクウツギ群集(モミーシキミ群集)。		
特記事項	自然公園;耶馬日田英彦山★、太宰府★、筑後川★。保護林;英彦山。特定植物群落;29, 48。		
暖温帯針葉樹林		カヤ群落	カテゴリーⅢ
ヤブツバキクラス域自然植生			2001: カテゴリーⅢ(竜ヶ鼻の自然林)
選定理由	RDB2001の複合群落「竜ヶ鼻の自然林」を分割記載した。崖地という地形を反映した針葉樹高木林である。		
危機要因	石灰採掘		
所在	香春町		
群落概要	竜ヶ鼻は平尾台の南西部に位置する石灰岩の崖地で、カヤ群落は隣接するケヤキ群落とともに、崖地下部の凸地形上に生じる。カヤの胸高直径は大きなものでは60cm、20m四方当たり5本程度生育する。		
特記事項	自然公園;筑豊。特定植物群落;20。		
落葉広葉樹林		ケヤキ群落[ヤブツバキクラス]	カテゴリーⅢ
ヤブツバキクラス域自然植生			2001: カテゴリーⅢ
選定理由	優占種のケヤキは有用樹種であり、伐採される可能性がある。		
危機要因	森林伐採		
所在	北九州市小倉南区[福智山]、宇美町[宝満山]、香春町[竜ヶ鼻]		
群落概要	溪谷沿いや転石の多い急傾斜地などに生育する。ケヤキは胸高直径70～90cm程度で、樹高は最大で30mに達する。高木層や亜高木層にはケヤキのほか、タブノキ、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、シロダモなどの照葉樹が多く出現する。ムクノキ、イロハモミジなどの落葉樹が混生する場所もある。低木層はアオキが優占している。草本層には、キツタ、テイカカズラ、フユイチゴ、ミゾシダなどが生育する。ケヤキ-イロハモミジ群集。		
特記事項	自然公園;北九州★、筑豊、太宰府。★特定植物群落;20, 21, 48。		

海岸低木群落	ハマボウ群落	カテゴリーⅢ
--------	--------	--------

ヤブツバキクラス域自然植生		2001: カテゴリーⅢ
選定理由	河口や入江の塩湿地に生じる低木林で、ほぼハマボウのみで群落を形成する。県内ではハマボウは玄界灘や周防灘、洞海湾の沿岸にも点在する。雷山川河口の群落は九州最大の規模を持ち、よく保護されているが、県内他地域では埋立や護岸工事で消滅する恐れがある。優占種のハマボウは、県 RDB 絶滅危惧Ⅱ類。	
危機要因	河川開発	
所在	岡垣町[汐入川], 糸島市(旧前原市, 旧志摩町)[雷山川(泉川)河口], 糸島市(旧二丈町)[松末羅漢川]ほか	
群落概要	ハマボウの純群落で、雷山川河口兩岸の泥湿地に約 1km にわたって連続している。群落高は 2~3m, 群落幅は 5m 前後。前面のヨシ群落からヨシが、土手からつる植物が侵入していることもある。なお、ハマボウは南西諸島などのマングローブと同等の生育立地に生じる。ハマボウ群集。	
特記事項	特定植物群落;86。	

海岸風衝低木群落	マルバニッケイ群落	カテゴリーⅢ
----------	-----------	--------

ヤブツバキクラス域自然植生		2001: カテゴリーⅢ
選定理由	マルバニッケイの群落は長崎県男女群島、鹿児島県南部、屋久島、種子島、トカラ列島などの海岸風衝斜面に生じ、県内では宗像市大島(北限地)にのみ分布する。優占種のマルバニッケイは、県 RDB 準絶滅危惧。	
危機要因	自然災害, 産地局限	
所在	宗像市(旧大島村)[大島北岸]	
群落概要	深土適潤の緩斜面では群落高は約 7m, 上層にマルバニッケイ、ハマビワ、ハマヒサカキ、マサキ、トベラなどが混生し、林床にノシラン、ツワブキ、ホソバワダン、オニヤブソテツなどが生じる。一方、露岩の多い急斜面では群落高は 3~4m, ほぼマルバニッケイのみが上層優占種となるほか、林床に隣接する海岸断崖地風衝草原のダルマガク、ハマボッス、ハマナデシコなどが出現する。	
特記事項		

常緑広葉樹二次林	ヤブツバキ群落	カテゴリーⅢ
----------	---------	--------

ヤブツバキクラス域代償植生		2001: カテゴリーⅡ(河頭山の照葉樹林), Ⅲ(油山の自然林)
選定理由	RDB2001 では複合群落(河頭山の照葉樹林, 油山の自然林)の構成群落として記載されていた。ヤブツバキは照葉樹林では普通に含まれる種であるが、椿油をとるために選択的に伐り残されて優占種となった群落である。油山の谷沿いではスダジイなどの照葉樹が成長してヤブツバキは減少している。	
危機要因	管理放棄, 遷移進行	
所在	北九州市八幡西区[河頭山], 福岡市南区[油山], 宗像市(旧玄海町)[地島]ほか	
群落概要	油山では自然観察の森の溪流沿いにヤブツバキが多く見られる群落が成立している。このほかの構成種としては、スダジイ、タブノキ、コナラ、ヒサカキ、アカマツなどが出現する。ヤブツバキは身近な花として人々に親しまれた植物であり、種子からは油をとり、幹や枝からは色々な道具を作っていた。群落の維持のためには定期的に人手を加える必要がある。	
特記事項	自然公園;玄海★。特定植物群落;14, 67。	

## 常緑広葉樹二次林

## サザンカ群落

## カテゴリーⅢ

ヤブツバキクラス域代償植生

2001: カテゴリーⅢ

選定理由	サザンカは、常緑広葉樹林二次林内で見られるが、群落が成立している場所は稀である。群落の成立要因および危機の要因はヤブツバキ群落と類似している。久留米市長岩山では県の天然記念物に指定された直後は盗掘が行われていたが、現在は落ち着いている。サザンカは県 RDB 準絶滅危惧に評価されている。
危機要因	園芸採取, 踏みつけ, 管理放棄
所在	久留米市[耳納山地・長岩山]。このほか、宗像市[戸田山], 八女市(旧黒木町)などに小規模な群落が存在する
群落概要	高木層はかつてはアカガシ, ウラジロガシ, ツブラジイで構成, 亜高木層はヤブツバキ, シキミなどが散在し, 低木層はサザンカが優占していた。現在はサザンカのみが中心となっており, 樹高 3~8m, 胸高直径 3~20cm で密集し, 晩秋には一面に白花で埋め尽くされている。
特記事項	自然公園; 筑後川。県天; 長岩山のサザンカ自生地。特定植物群落; 101。

## 常緑広葉樹二次林

## タマミズキ群落

## カテゴリーⅢ

ヤブツバキクラス域代償植生

2001: カテゴリーⅢ

選定理由	タマミズキは落葉高木で、垂直に伸びる幹とほぼ水平に伸びる枝を持っている。樹高 25m 程度まで成長する。暖温帯～亜熱帯まで分布するが、単木が多く群落を構成することは珍しい。八女市(旧黒木町)の群落は県内では唯一である。落葉後の枝に赤い果実が密に付いたタマミズキの景観は、群落の生育するこの地方の冬の風物詩である。
危機要因	管理放棄, 遷移進行
所在	八女市(旧黒木町)
群落概要	付近一帯はツブラジイ(コジイ)が優占する照葉樹林であるが、この中にタマミズキが優占する林分が存在する。胸高直径 10~40cm, 樹高 15~20m のタマミズキが約 50 個体生育している。亜高木層～低木層はツブラジイ, タブノキ, リョウブ, サカキ, ヤブツバキ, アラクシなど, 草本層は照度が低く少ない。群落の維持のためには定期的な, ツブラジイなど競争相手の樹木の伐採が必要である。
特記事項	

## 落葉広葉樹二次林

## コナラ群落

## カテゴリーⅢ

ヤブツバキクラス域代償植生

2001: カテゴリーⅡ (雑木林)

選定理由	コナラを中心とした里山雑木林は、多くの動植物が生活の場としており、種の多様性保存の場としての重要性が非常に高い。また、40~50 年前までは日常生活に必要な薪炭や用材獲得の場として重要な存在であった。しかし、近年は雑木林の必要性がなくなり、ほとんどの森林は手入れされることもなく放棄されている。日本人の歴史文化や里山の希少動植物を守る上で重要な群落である。
危機要因	管理放棄, 遷移進行
所在	筑紫野市, 久留米市など, 県内各地に残存している
群落概要	筑紫野市大石地区のコナラ林は、地元の森林組合で管理され、15~20 年周期で伐採が行われている。また、毎年林床の草刈りなどが行われている。これ以外の地域ではほとんどが放棄されており、照葉樹林への遷移が進行している。森林所有者・地元住民への啓発も重要。
特記事項	県内各地の自然公園

落葉広葉樹二次林	クロモジ群落	カテゴリーⅢ
----------	--------	--------

ヤブツバキクラス域代償植生

2001: カテゴリーⅢ

選定理由	クロモジは従来本州や四国、北海道に自生し、九州には自生しないとされていた。しかし、1970年にこの地で発見され、今日でも九州地方唯一の産地である。本種の西南限自生地でもあることから、植物地理学的、地史学的にも重要な産地である。ノグルミやクスギなどの落葉広葉樹二次林の低木層として群生している。クロモジは県 RDB 絶滅危惧Ⅱ類に評価されている。
危機要因 所在	管理放棄、遷移進行(常緑樹の増加)、産地局限 篠栗町
群落概要	高木層には樹高 10m 前後のノグルミ、クスギ、カラスザンショウなどが生育しており、その下に 4~5m のクロキ、コナラ、シロダモなどがあり、その下部 1~2m にヒサカキ、ヤブムラサキ、イボタノキなどとともにクロモジが生育している。
特記事項	特定植物群落;99

中間湿原	ミヤマシラスゲ群落	カテゴリーⅢ
------	-----------	--------

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等

2001: カテゴリーⅠ~Ⅱ(湿生植物群落)

選定理由	東峰村小石原の高原には各種の湿原が点在し、その中で傾斜の緩い河畔や池沼の上流域、やや日陰の谷部などでは、ミヤマシラスゲの純群落となる場合が多い。ミヤマシラスゲは本州や四国に多く、九州地方では稀であり、脊振山地東部とともに分布の南限域に近い。従って、湿原植物の主要構成種であるとともに、植物地理学的にも貴重な群生地である。
危機要因 所在	湿地開発、土地造成、遷移進行 東峰村(旧小石原村)。筑紫野市、那珂川町、宇美町、添田町などにも生育するが群生場所は少ない
群落概要	概ねミヤマシラスゲの純群落より成る。周辺部ではタニヘゴ、ミゾソバ、ヌマトラノオ、ヒメシロネ、ホソバノヨツバムグラ、ハイチゴザサ、ヤブイバラなどが混生する。群生地の面積が小さく、少しの環境変化で消滅する危険がある。また、シカが採食しないので、更に純群落化している箇所もある。
特記事項	

低層湿原	ヨシ群落	カテゴリーⅢ
------	------	--------

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等

2001: カテゴリーⅡ(河辺草本群落)

選定理由	ヨシは至るところに見られるが、川の下流部で流水の緩やかで土砂が堆積した場所に多い。しかし、今日では下記要因などにより、大規模に見られる場所は減少している。RDB2001 では河辺草本群落としてカテゴリーⅡとしていたが、県内各地に見られるためカテゴリーⅢとした。
危機要因 所在	河川開発、その他(土砂採取) 各地に見られるが比較的多い所は、遠賀川下流、今川下流
群落概要	ヨシの純群落となることが多く、草丈は 2m 前後になる。周辺部ではミゾソバ、シロバナサクラタデ、マコモなどが混生する。攪乱や刈り取りなどが頻繁に行われると、乾性化が進行してセイタカアワダチソウやクワモドキ、セイバンモロコシなどの帰化植物が増加する。
特記事項	特定植物群落;42, 70。



浮葉・沈水草原		アマモ群落	カテゴリーⅢ
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリーなし	
選定理由	遠浅の海岸で泥土が堆積する海底に生育する。自生地の確認が難しい上に、埋立や土砂採取などにより生育できる環境も減少しており、現存地はごく稀である。福岡市東区の群生地は埋立地の水路という不安定な環境にあり、周辺からの土砂流入、水質汚濁などによる減少や消滅が懸念される。アマモは県 RDB 準絶滅危惧に評価されている。		
危機要因	海岸開発、水質汚濁、その他(土砂採取、土砂流入)		
所在	福岡市東区・西区、福津市		
群落概要	海域の沈水草本群落。アマモの純群落となる。アマモ群集。		
特記事項			
塩沼地植生		シオクグ群落	カテゴリーⅢ
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリーⅠ(塩沼地植物群落)	
選定理由	河川改修、埋立などにより消失する危険性がある。県内では生育地が比較的多く、また生育面積も比較的広いので、カテゴリーⅢが妥当と判断される。		
危機要因	河川開発、海岸開発、水路改修		
所在	北九州市門司区・八幡西区、行橋市、豊前市、築上町(旧椎田町)、福岡市東区・西区、大川市、柳川市ほか		
群落概要	RDB2001 の塩沼地植物群落のうち、シオクグが優占する群落。主に泥地に見られるが、砂泥地にも見られる。群落高 0.4~0.6m で、各地の海岸や河口の塩湿地に見られる。シオクグ 1 種で構成されることが多いが、ヨシ、ホソバハマアカザ、ヒロハマツナなどが混生することもある。シオクグ群集。		
特記事項	特定植物群落;73, 84。		
海岸断崖地植生		ダルマガク群落	カテゴリーⅢ
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリーⅢ	
選定理由	芥屋海岸などでは、園芸用の採取、踏みつけの可能性はある。生育地によっては港湾背後のコンクリート擁壁の建設などにより消失する危険性がある。ダルマガクは朝鮮海峡を挟む両岸地域に分布する植物で、県 RDB 準絶滅危惧に選定されている。		
危機要因	海岸開発、園芸採取、踏みつけ		
所在	北九州市若松区、宗像市(旧玄海町、旧大島村)[地島、大島、沖ノ島]、糸島市(旧志摩町)[彦山海岸、芥屋海岸]、新宮町[相島]ほか		
群落概要	海岸断崖地に見られる草原植生。群落高は 0.3~0.5m で、ダルマガクが優占し、ホソバワダン、ハマボス、タイトゴメ、ハマエノコロなどで構成される。ハマベノギク、ボタンボウフウ、ハマナデシコなどが混生することもある。ダルマガク-ホソバワダン群集。		
特記事項	自然公園;玄海★。特定植物群落;74, 76。		

植林	スギ群落〔巨木林〕	カテゴリーⅢ
植林地・耕作地植生		2001: カテゴリーⅢ
選定理由	県内に広汎に見られるスギ植林地は通常 50 年前後で伐採、植林が繰り返されており、100 年を超えた林分はごく稀である。しかし、篠栗町若杉山や東峰村小石原には 200～300 年(中には 500 年以上)を経た植林地が見られる。これらは山岳宗教と関係する場合が多いが、いずれも直径 1m を超えるスギの群生地として貴重である。	
危機要因	自然災害, その他(群落の孤立化)	
所在	篠栗町, 東峰村	
群落概要	高木層はスギの純林で樹高は 30～45m, 直径はまちまちだが 80～150cm のものが多い。亜高木層以下はタブノキ, シロダモ, カゴノキ, シキミ, ヤブツバキ, ヒサカキ, ケクロモジ, ヤブムラサキ, アオキ, イノデ, イノコズチ, フユイチゴなどが多い。小石原では度重なる風害により個体数が減少して、周辺木の新たな枯損が懸念される。	
特記事項	自然公園;太宰府。保護林;小石原, 若杉山。特定植物群落;31, 100。	
岩角地・風衝地植生	ツゲ群落	カテゴリーⅣ
ブナクラス域自然植生		2001: カテゴリーⅣ
選定理由	優占種のツゲはシカ食害がほとんど見られないが、林床植物が食害を受ける可能性がある。優占種のツゲは、県 RDB 絶滅危惧Ⅱ類。	
危機要因	シカ増加	
所在	朝倉市(旧甘木市)・嘉麻市(旧嘉穂町)[古処山]	
群落概要	古処山上部の石灰岩地に成立する常緑広葉低木林。群落高は 3～9m で、亜高木層にツゲが優占し、コハウチワカエデ, イロハモミジ, イヌシデなどの落葉樹, シロダモ, イヌガヤなどの常緑樹を伴う。低木層には、ハナイカダ, ウリノキ, サイゴクイボタ, コマユミなど、草本層にはイワガラミ, ヤマアイ, ヤマヤブソテツなどが生育する。	
特記事項	自然公園;筑後川★。特天;古処山ツゲ原始林, 県天;秋月のツゲ原始林。特定植物群落;50。	
岩角地・風衝地植生	ゲンカイツツジ群落	カテゴリーⅣ
ブナクラス域自然植生		2001: カテゴリーⅣ
選定理由	多くは保存状況良好。優占種のゲンカイツツジは園芸用に採取される可能性がある。ゲンカイツツジは県 RDB 準絶滅危惧に評価されている。	
危機要因	園芸採取	
所在	添田町・東峰村(旧宝珠山村)・豊前市・築上町(旧築城町)[英彦山地], 福智町(旧赤池町)[福智山地]	
群落概要	ブナクラス域自然植生の低木個体群。英彦山地や福智山地の岩角地に生育する。ゲンカイツツジのほか、イソノキ, ナンキンナナカマド, ネジキ, タカノツメなどの低木, イワギボウシ, イワヒバ, シノブなどの草本を伴う。	
特記事項	自然公園;耶馬日田英彦山★, 北九州。県天;岩屋のげんかいつつじ。特定植物群落;28, 90。	

岩角地・風衝地植生		イワシデ群落	カテゴリーⅣ
ブナクラス域自然植生		2001: カテゴリーⅣ	
選定理由	多くは保存状況良好。将来的には石灰採掘の可能性はある。		
危機要因	石灰採掘		
所在	北九州市小倉南区[平尾台], 香春町[香春岳], 福智町(旧方城町)[広谷]		
群落概要	石灰岩地に成立する落葉広葉樹自然林。群落高5~10mで、亜高木層にイワシデが優占し、低木層にはオオコマユミが多く、イワツクバネウツギ、イブキシモツケ、キビノクロウメモドキ、コバノチョウセンエノキなどの好石灰植物が生育する。草本層にはテイカカズラ、シロヨメナ、シロバナノハンショウヅル、ホソバヒカゲスゲなどが生育する。イワシデーイワツクバネウツギ群集。		
特記事項	自然公園;北九州★, 筑豊★。特定植物群落;19, 24。		
落葉広葉樹林		エノキ群落	カテゴリーⅣ
ヤブツバキクラス域自然植生		2001: カテゴリーⅣ	
選定理由	落葉樹のエノキが優占する高木林である。照葉樹のタブノキ、クスノキ、カゴノキなどと競合しており、後継稚樹も見られないため、将来的に消失する危険性がある。		
危機要因	遷移進行		
所在	福岡市東区・新宮町[立花山], 飯塚市[笠置山]		
群落概要	群落高 20~30m で、高木層はエノキのほか、タブノキ、カゴノキ、ヤブニッケイなどを伴う。亜高木層にはヤブツバキ、低木層にはアオキが多い。草本層には、キツタ、テイカカズラ、ベニシダ、ヤブランなどが生育する。エノキの稚樹は見られない。		
特記事項	自然公園;玄海★。特定植物群落;59, 98。		
落葉広葉樹林		ムクロジ群落	カテゴリーⅣ
ヤブツバキクラス域自然植生		2001: カテゴリーⅣ	
選定理由	ムクロジが優占する夏緑樹高木林で、照葉樹林帯下部の露岩率の高い谷地形上に生じる。県下のムクロジ群生地は白馬山と城山のみである。		
危機要因	自然災害(風倒害)		
所在	宗像市[城山], 嘉麻市(旧山田市)[白馬山]		
群落概要	林冠にムクロジが優占するほか、エノキ、ムクノキ、ハゼノキなどの夏緑樹、タブノキ、ヤブニッケイ、カゴノキ、シロダモ、バリバリノキ、ナナミノキ、アラカシなどの照葉樹も散生する。白馬山では転石が累積した緩傾斜の谷に生じ、ホソバタブ、シイモチ、イワヒトデ、ヒメウワバミソウなどが見られる。転石上にコケ類が密生する。城山では母岩が露出した表土の薄い急傾斜の谷に生じ、ウラジログシ、カヤ、イロハモミジ、イヌシデ、ノグルミ、ナチシダなどを伴い、露岩上にマメヅタが頻出する。		
特記事項	保護林;狩倉。特定植物群落;45, 80。		

海岸風衝低木群落		トベラ群落	カテゴリーⅣ
ヤブツバキクラス域自然植生		2001: カテゴリーⅣ	
選定理由	海岸山地や砂丘台地の風衝斜面に生じる照葉樹低木群落の一つ。当群落は下方や側方で海岸断崖地草原に、上方でハマビワ群落に接することが多い。		
危機要因	自然災害		
所在	北九州市門司区・若松区		
群落概要	群落高は1～3m, 階層数は2～3, 上層は枝葉が密集し, 下層は疎開する。上層の優占種はトベラやマサキで, シヤリンバイ, ヤブニッケイ, ヤブツバキ, ネズミモチ, ハマヒサカキなどの照葉樹, アカメガシワ, エノキ, マルバグミ, ノブドウ, サルトリイバラなどの夏緑樹やつる植物を交える。下層ではキツタ, テイカカズラ, ヤブラン, ノシラン, ツワブキ, オニヤブソテツなどが散生する。土壌はハマヒサカキ群落と同様に, ハマビワ群落, マルバニッケイ群落よりも薄く, 乾燥気味である。トベラ・マサキ群集。		
特記事項	自然公園; 玄海★。特定植物群落; 1, 37。		

海岸風衝低木群落		ハマヒサカキ群落	カテゴリーⅣ
ヤブツバキクラス域自然植生		2001: カテゴリーⅣ	
選定理由	海岸の風衝岩角地に生じる照葉樹低木群落の一つ。当群落は下方や側方で海岸断崖地草原と, 上方でハマビワ群落と接することが多い。		
危機要因	自然災害		
所在	宗像市(旧大島村), 糸島市(旧志摩町)		
群落概要	群落高は0.5～3m, 階層数は1～2。上層優占種のハマヒサカキが典型的な風衝形を呈する。出現種数は階層数, 隣接群落の種類, 露岩の多少に応じて変化する。大島の群落は密集するハマヒサカキの単層群落で, 出現種数は少ない。芥屋の群落は, 上層にハマヒサカキのほかトベラ, マサキ, シヤリンバイ, ヤブニッケイ, ネズミモチなどの照葉樹, マルバグミ, ノブドウ, サルトリイバラ, ハマサオトメカズラ, ハマナタメメなどのつる植物, ハチジョウススキ, ニオウヤブマオ, ハマウドなどの高茎草本を交え, 下層にキツタ, テイカカズラ, フウトウカズラ, ヤブラン, ノシラン, ツワブキ, オニヤブソテツなどが出現する。トベラ・マサキ群集の一型。		
特記事項	自然公園; 玄海★。福岡県自然環境保全地域(大島)。特定植物群落; 57, 76。		

海岸風衝低木群落		ハマビワ群落	カテゴリーⅣ
ヤブツバキクラス域自然植生		2001: カテゴリーⅣ	
選定理由	海岸山地の風衝斜面に生じる照葉樹低木群落の一つ。当群落は下方で海岸断崖地草原やトベラ群落・ハマヒサカキ群落に, 上方でタブノキ群落と接することが多い。		
危機要因	自然災害		
所在	北九州市若松区, 福岡市東区・西区, 宗像市(旧玄海町, 旧大島村), 糸島市(旧志摩町)		
群落概要	群落高は2～7m, 階層数は2～3, 上層は優占種のハマビワ, トベラ, マサキなどの枝葉が密集し, ヤブニッケイ, クロキ, ヒメユズリハ, ヤブツバキ, ネズミモチ, アオキなどを交えるほか, マルバグミ, ノブドウ, サルトリイバラなどのつる植物を伴う。草本層の植被率は一般に高く, キツタ, テイカカズラ, フウトウカズラ, ノシラン, ヤブラン, ムサシアブミ, ヒゲスゲ, ツワブキ, オニヤブソテツなどが密生することが多い。種組成上, ハマビワ・オニヤブソテツ群集とされる。マルバニッケイ群落とともに, ハマヒサカキ群落やトベラ群落よりも土壌は深く適潤である。		
特記事項	自然公園; 玄海★。福岡県自然環境保全地域(沖ノ島)。国天; 沖の島原始林。特定植物群落; 58。		

常緑広葉樹二次林		マテバシイ群落	カテゴリーⅣ
ヤブツバキクラス域代償植生		2001: カテゴリーⅣ	
選定理由	マテバシイは古代より薪炭、用材として、果実は食用として利用されてきた樹木である。自然には暖帯～亜熱帯～熱帯地域に、日本では九州の沿岸部から琉球列島にかけて自生している。福岡県では玄界灘沿岸部および島嶼部で広範囲に分布しており、純林状態の群落も各地に生育している。その大部分は植栽されたものであり、1960年代までは20年前後の周期で伐採が繰り返されていた。糸島半島では各地に胸高直径40cm程度の大木が生育している。		
危機要因	土地造成、管理放棄		
所在	岡垣町、福岡市、宗像市、福津市、糸島市。このほか、県内各地の沿岸部や島嶼部に分布している		
群落概要	高木層はマテバシイが優占し、タブノキ、シロダモ、ヤブニッケイ、ハゼノキなどを交える。志賀島中央部では純林状態の林分も存在する。亜高木層以下ではイヌビワ、ハマビワ、ヤブツバキ、マサキ、トベラ、ハクサンボク、ムサシアブミなどが生育する。マテバシイ-ハクサンボク群落。		
特記事項	自然公園；玄海★。特定植物群落；61, 65, 107。		
低層湿原		マコモ群落	カテゴリーⅣ
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリーⅡ（河辺草本群落）	
選定理由	河岸の最前面に生育する草本植物群落で、河川改修によって消失する危険性がある。RDB2001では河辺草本植物群落に含まれていた。県内各地に広く見られるが、危機要因を有することから、カテゴリーⅣが妥当と判断された。		
危機要因	河川開発、水路改修		
所在	行橋市、中間市、福岡市東区・南区、久留米市、八女市ほか、県内各地		
群落概要	ヨシ群落の更に前面に形成される抽水植物群落。群落高は1.7～2mに達し、マコモが密生する純群落を形成することが多い。場所によっては、ヒメガマ、ヨシなどが混生する。水辺の生物相保持の役割を果たす群落として重要である。		
特記事項			
海岸砂丘植生		ツルナ群落	カテゴリーⅣ
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリーなし	
選定理由	防潮護岸の建設や飛砂防止工事などにより消失する危険性がある。RDB2001には記載されていなかったが、危機要因を有する海岸砂丘植生であること、しかし、県内での生育地は比較的多いことから、カテゴリーⅣが妥当と判断される。		
危機要因	海岸開発、踏みつけ		
所在	北九州市小倉北区[藍島、馬島]、岡垣町・芦屋町[三里松原]、福岡市東区・西区[雁の巣、志賀島、玄界島]、宗像市(旧玄海町、旧大島村)[さつき松原、地島、大島]、糸島市(旧志摩町)[幣の松原、姫島]、新宮町[相島]ほか		
群落概要	砂礫浜の波打ち際に生育する。ツルナが茎を伸ばして優占し、ハマダイコン、ハマヒルガオなどの海岸植物、ギシギシ、カモジグサなどの路傍植物が混生する。ツルナ群落。		
特記事項	自然公園；玄海★。特定植物群落；40, 60, 75。		

海岸砂丘植生	ハマゴウ群落	カテゴリⅣ
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリなし
選定理由	防潮護岸の建設や飛砂防止工事などにより消失する危険性がある。RDB2001 には記載されていなかったが、危機要因を有する海岸砂丘植生(矮性低木林)であること、しかし、県内での生育地は比較的多いことから、カテゴリⅣが妥当と判断される。	
危機要因	海岸開発	
所在	北九州市小倉北区[藍島, 馬島], 岡垣町・芦屋町[三里松原], 福岡市東区・西区[雁の巣, 志賀島, 玄界島], 糸島市(旧志摩町)[幣の松原, 姫島], 宗像市(旧玄海町, 旧大島村)[さつき松原, 地島, 大島], 新宮町[相島]ほか	
群落概要	群落高 1m の矮性海岸砂丘低木林。海岸砂丘の内陸側に生育する。群落高 0.2~0.8m で、ハマゴウが優占し、ハマヒルガオ、コウボウシバ、ハマエンドウ、カワラヨモギなどの海岸植物のほか、チガヤ、ギンギシなどの路傍植物が混生する。ハマゴウ-チガヤ群集。	
特記事項	自然公園; 玄海★。特定植物群落; 40, 60, 75。	

海岸断崖地植生	ボタンボウフウ群落	カテゴリⅣ
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリⅢ (ダルマギク群落)
選定理由	RDB2001 ではダルマギク群落に含まれて記載されていた。生育地によっては港湾背後のコンクリート擁壁の建設などにより消失する危険性がある。海岸断崖地に生育する自然草原であることから、カテゴリⅣが妥当と判断される。	
危機要因	海岸開発	
所在	宗像市(旧玄海町, 旧大島村)[地島, 大島, 沖ノ島], 糸島市(旧志摩町)[芥屋海岸], 新宮町[相島]ほか	
群落概要	ダルマギク群落と同様の立地に生育する海岸断崖地植生。群落高は 0.3~0.5m で、ボタンボウフウが優占し、ホソバワダン、ハマボス、タイトゴメ、ハマエノコロ、ハマナデシコなどが混生する。ダルマギクを欠くことでダルマギク群落と区別される。ボタンボウフウ-ホソバワダン群集。	
特記事項	自然公園; 玄海★。特定植物群落; 76。	

海岸断崖地植生	ハチジョウススキ群落	カテゴリⅣ
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等		2001: カテゴリⅣ
選定理由	多くは保存状況良好であるが、生育地によっては港湾改修などで消失する危険性がある。	
危機要因	海岸開発	
所在	福岡市西区[小呂島], 宗像市(旧玄海町, 旧大島村)[地島, 大島, 沖ノ島], 新宮町[相島]ほか	
群落概要	海岸断崖地に見られる風衝草原。群落高は 1m 程度で、ハチジョウススキが優占し、ニオウヤブマオ、ボタンボウフウ、ツツブキなどが比較的多く、ヒゲスゲ、クルマバアカネ、ハマナタマメ、ハマサオトメカズラなどが混生する。	
特記事項	自然公園; 玄海★。特定植物群落; 85。	

植林	クスノキ群落〔巨木林〕	カテゴリーⅣ
植林地・耕作地植生		2001: カテゴリーⅣ
選定理由	クスノキはかつて用材としたのみならず、医療用、防虫用、火薬などの原料となる樟脳を採取するため植栽された。その後樟脳は石油製品に取って代われ、植林地は放置されたまま現在に至り、本県では数少ない常緑広葉樹植林地として貴重となっている。特に国の特別天然記念物、天然記念物に指定されている立花山と矢部川河畔は200～300年経過した林分であるが、このほかに100年前後の林分は県内各地に見られる。	
危機要因	踏みつけ、自然災害	
所在	福岡市東区・新宮町・久山町〔立花山〕、みやま市(旧瀬高町)〔矢部川河畔〕 北九州市門司区、飯塚市、朝倉市、久留米市、大牟田市などには年齢の若い群生地が見られる。	
群落概要	立花山では樹高20～30m、胸高直径50～100cmのクスノキが純林をなし、タブノキ、ヤブニッケイ、カゴノキ、シロダモ、エノキ、ムクノキなどが少数混生し天然林状態となっている。矢部川河畔では直径30～80cmとやや小さく、林床が公園化され、一部ではメダケが混生している。	
特記事項	自然公園；玄海★、矢部川。特天；立花山クスノキ原始林、国天；新舟小屋のクスノキ林。保護林；立花山。特定植物群落；53, 59。	

植林	キンメイモウソウチク群落	カテゴリーⅣ
植林地・耕作地植生		2001: カテゴリーⅣ
選定理由	モウソウチクの突然変異で桿に黄色の縦縞が生じたキンメイモウソウチクは、発生が稀であり、和風庭園の緑化資材としても賞用される。久留米市高良山の西側中腹に見られる生育地は1974年に国の天然記念物に指定されている。一時衰退しかけたが、現在は適切な管理のもと、良好な状態で維持されている。	
危機要因	産地局限	
所在	久留米市〔高良山〕	
群落概要	高木層のキンメイモウソウチクの高さは13～16m、直径は10～16cmで、純群落を形成する。5年以上経過した竹は他の低木類とともに伐採され、生育旺盛な竹林として適切な密度管理が行われている。1m以下の草本層にはヤブミョウガ、イノコズチ、ハエドクソウ、ヤマアイ、ミズヒキ、フモトシダなどが生育している。	
特記事項	自然公園；筑後川。国天；高良山のモウソウキンメイチク林。特定植物群落；102。	